

取扱説明書

FAPJ105N-R- n L/nLT
FCSJ105N-R- n L/nLT

P型1級 火災受信機 複合火災受信機（防排煙連動）

注意



ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みください。
また、本文中に記載されている注意事項をよく読み、理解した上で
ご使用ください。

- この取扱説明書はいつでも使用できるところに保管してください。
- この製品は定期的な保守点検を必ず行ってください。

はじめに

このたびは、弊社の P 型 1 級火災受信機または P 型 1 級複合火災受信機をご採用いただき、まことにありがとうございます。この商品は消防法の規格に基づく各種の試験に合格した国家検定品です。

火災時に備え正しくお使いいただくために、この説明書をよくお読みください。

なお、この説明書は大切に保管してください。

本書の読み方

ここでは本書の使い方や、本書で使用する警告やマークの意味などについて説明しています。

本書の構成と使い方

本書は、P 型 1 級火災受信機および P 型 1 級複合火災受信機の操作について対象者別に分けて説明しています。必要な箇所をお読みください。

運用管理編

火災受信機の監視を行う方が対象です。監視時の注意事項や、火災時の処置などについて説明しています。

保守点検編

火災受信機の保守点検を行う方が対象です。火災受信機の点検方法などについて説明しています。

付録

火災受信機の設定や操作についての補足事項を説明しています。

警告表示について




警告表示は、警告文と警告レベルを表す記号の組合せで表示されます。

■警告文

危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをした場合に生じるおそれがある内容を、「危険」、「警告」、「注意」、の 3 つに区分しています。







危険	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うか、防災機能に致命的な悪影響を及ぼすおそれがあることを示しています。
警告	取り扱いを誤った場合、使用者が重傷や傷害を負うか、防災機能の一部に重大な悪影響を及ぼすおそれがあることを示しています。
注意	取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うか、防災機能に悪影響を及ぼすおそれがあることを示しています。また、防災機能を長期にわたって有効に活用する上で、ぜひ守ってほしい事項について示しています。

■記号

	危険・警告・注意を促す内容があることを示しています。
	禁止内容を示しています。
	行為を強制したり、指示したりする内容を示しています。

本文中のマークについて

本文中のマークについて以下に説明します。

	操作箇所を示しています。
	火災受信機をお使いになる上で、知っておきたいことを示しています。
	火災受信機をお使いになる上で、注意していただきたいことを示しています。
	
	星型のマークは、火災受信機で点灯または点滅する箇所を示しています。
	

本文中の表記について

本書では、以下のように製品およびマニュアルを表記しています。



- ・ P 型 1 級火災受信機 (FAPJ105N シリーズ) および P 型 1 級複合火災受信機 (FCSJ105N シリーズ) を**本機**と表記しています。
- ・ 本機に接続される設備 (火災感知器、発信機、表示灯、地区音響装置、表示機、防排煙設備、消火設備、非常放送設備など) を総称して**付属設備**と表記しています。
- ・ 自動火災報知設備を施工、保守点検、修理する業者を**保守点検契約先**、また、実際に施工、保守点検、修理をする人を**保守点検者**と表記しています。
- ・ 『P 型火災／複合火災受信機 (FAPJ105. FCSJ105) データベース設定説明書』 (TN51527) を『**データベース設定説明書**』と表記しています。
- ・ 『P 型火災受信機／複合火災受信機 FAPJ/FCSJ105N シリーズ 施工説明書』 (TN51526) を『**施工説明書**』と表記しています。
- ・ 『FAP/FCSJ104・105 シリーズ、FAPG/FCSG/SAP/AAPJ104 シリーズ、FCPJ202-R-10L DBTOOL 取扱説明書』 (TN51540) を『**DBTOOL 取扱説明書**』と表記しています。


安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全にお使いいただき、お客様やほかの人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。


ご使用になる前に、「安全上のご注意」をよくお読みの上、本機を正しくお使いください。


万一、異常が発生したら


	機器が故障したときは、すみやかに保守点検契約先に連絡してください。故障を放置すると正常に機能しません。
	保守点検者以外は本機内部に手を触れないでください。感電・故障のおそれがあります。


注意 	<p>非火災報が出た場合はその原因を確認してください。原因が不明の場合は保守点検契約先に点検を依頼してください。また、非火災報が出た場合に、電源を切ったり、音響停止スイッチを停止状態にしたままにすると、火災時に正常に動作せず被害を防止できなくなります。</p>
--	--


本機や付属設備の設置、取り扱いについて


警告 	<p>通常は音響、地区音響を停止しないでください。火災時に警報音が出ないため、避難・消火活動が遅れるおそれがあります。</p>
--	---


警告 	<p>防火戸、防火シャッター、防煙たれ壁などの近くに物を置かないでください。火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。</p>
--	--


警告 	<p>防排煙設備や関連設備の作動信号は、関連する装置や制御盤などから受信した作動信号です。実際に作動しているかは、各装置や制御盤および現地で確認してください。所定の機能を発揮していないと被害が拡大するおそれがあります。</p>
--	---


注意 	<p>本機や発信機のまわりに物を置かないでください。緊急時の操作に支障をきたします。</p>
--	--


注意 	<p>機器は必ず手で操作してください。手以外では確実な操作ができず、機器を破壊するおそれがあります。</p>
--	--


注意 	<p>火災鎮火前に機器の復旧操作をしないでください。火災状況の把握が困難になります。また、あわてて復旧操作をすると表示状態の再確認ができなくなり、現場調査に支障をきたすおそれがあります。</p>
--	---

注意 	<p>「スイッチ注意」灯が消灯していることを確認してください。 「スイッチ注意」灯が点滅している場合、いずれかのスイッチ灯が点灯しています。点灯しているスイッチを確認し、スイッチを押して消灯させてください。スイッチを元に戻さない場合、緊急時に正常に機能しません。</p>
--	--



注意 	<p>各機器の正しい取り扱いを理解し、緊急時の使用に備えてください。緊急時の対応が容易になります。</p>
--	---

注意 	<p>感知器の下で多量の煙、蒸気または高熱を発する物を使用しないでください。非火災報（調理、たばこなどによる煙や熱により、火災でない場合でも煙濃度や温度が感知器の感知レベルに達した場合に作動すること）の原因となります。 また、感知器に物をぶつけたり、取り外したりしないでください。失報（感知器の設置箇所が不適切であったり、感知器の故障などが原因で、火災を有効に感知しないこと）の原因となります。</p>
--	--

注意 	<p>本防災システムは法の定めるところに従って、必ず定期点検を実施してください。この定期点検を怠ると火災時に正常に機能しないおそれがあり、その責任を問われることがあります。</p>
--	--

警告 	<p>本書では、本機の音響を連続停止することを「保守音響停止」、本機の異常音響を連続停止することを「保守異常音響停止」、館内の音響（地区音響）を連続停止することを「保守地区音響停止」と記載しています。 通常は音響を連続停止しないでください。火災時および異常時に警報音が出ないため、避難・消火活動および異常回復作業が遅れるおそれがあります。</p>
--	--

予備電源について




 警告	予備電源が接続されているか確認してください。接続されていない場合、停電時に機能しません。
 警告	予備電源の接続は、+・-を絶対に間違わないようにしてください。間違えた場合、予備電源を発熱・破裂させる原因になります。

保守点検について

ここでは、保守点検のきまりや、本機で免除される試験および保守点検者の資格について説明しています。

定期点検のきまり

自動火災報知設備は、非常時に正しく動作させるために、定期的な保守点検が必要です。消防法では、防火対象物の関係者（建物の所有者、管理者または占有者）に対して、定期的な保守点検の実施およびその結果を報告するように定めています。

 警告	連動している設備の内容を十分に確認して操作してください。不用意な操作は機器類に損害を与え、人に危害を与えるおそれがあります。
 警告	保守点検者以外の方は、本機や付属設備などの分解や修理をしないでください。故障の原因になります。
 注意	定期交換が必要な部品は、指定期間で交換してください。指定期間で交換しない場合、正常に機能しなくなります。

なお、消防法によって定められている自動火災報知設備の定期点検と報告の概要を以下に示します。

■定期点検について

定期点検の種類	定期点検の期間
機器点検	6か月
総合点検	1年



保守点検の結果は、維持台帳に記録して保管し、期間ごとに所轄の消防署に報告しなければなりません。期間については、下記の『■結果報告』を参照してください。

■結果報告

防火対象物の種類	報告期間
特定防火対象物	1年に1回
特定防火対象物以外のもの	3年に1回

保守点検する会社について

自動火災報知設備の保守点検には、専門的な知識と技術を必要とするために、消防法では資格制度を設けて、点検有資格者を定めています。保守点検契約先と契約を結び、有資格者（甲種消防設備士、乙種消防設備士、消防設備点検資格者）による保守点検を実施してください。

「寿命部品」の定期交換について

ここでは、寿命部品の定期交換について説明しています。

「寿命部品」定期交換のお願い

本システムを適正に維持するためには、法で定める定期点検とともに、寿命部品の定期交換が必要です。

本システムに使用している電気部品は、設置後の時間経過とともに劣化・磨耗していきます。システムを更新まで適正に維持管理するためには、故障が発生した時点ではなく、予防保全の観点から定期的に寿命部品の交換（有償）をしていただきますようお願い申し上げます。

注意 !	定期交換推奨年数はこの間の電気部品および本システムの機能・性能を保証するものではありません。
注意 !	定期交換推奨年数は取扱説明書どおりに使用し、良好な環境で使用した場合の推奨値です。
注意 !	寿命部品以外の電気部品についても、経過年数変化により劣化・故障は発生します。
注意 !	寿命部品の交換を行う場合は、仕様や取り付け方法、設定方法に指定があります。当社 CS 部門または代理店・特約店にご用命ください。
注意 !	寿命部品のモデルチェンジや生産中止によっては、代替品を用いることがあります。代替品の互換性によっては、対応するための加工などが必要になることがあります。
注意 !	設置後年数が経つと、部品の生産中止が多くなり、寿命部品を含めた電気・電子部品の供給ができなくなることがあります。この場合には、システムの更新（リニューアル）が必要となります。

寿命部品および定期交換推奨年数

寿命部品および定期交換推奨年数を以下に示します。

部品名	部品記号	定期交換推奨年数
蓄電池（予備電源）	E	5年

目次

運用管理編 1

1. 各部の名称と機能.....2
2. 運用の流れ.....6
3. 平常時の監視状態.....7
4. 火災信号（第1報）を受信したら.....8
5. 火災警報を発したら.....9
6. 火災が鎮火したら.....15
7. 異常警報を発したら.....16

保守点検編 19

1. 各部の名称と機能.....20
2. 保守点検試験.....23
3. 定期受信回路試験.....33

付録 35

- A. 日時設定.....36
 - B. 点滅周期について.....37
 - C. 履歴リストについて.....39
 - D. 後続送り操作について.....44
 - E. 電話の取り扱いについて.....44
 - F. 操作無効機能.....44
 - G. 仕様.....46
- 索引.....47

運用管理編

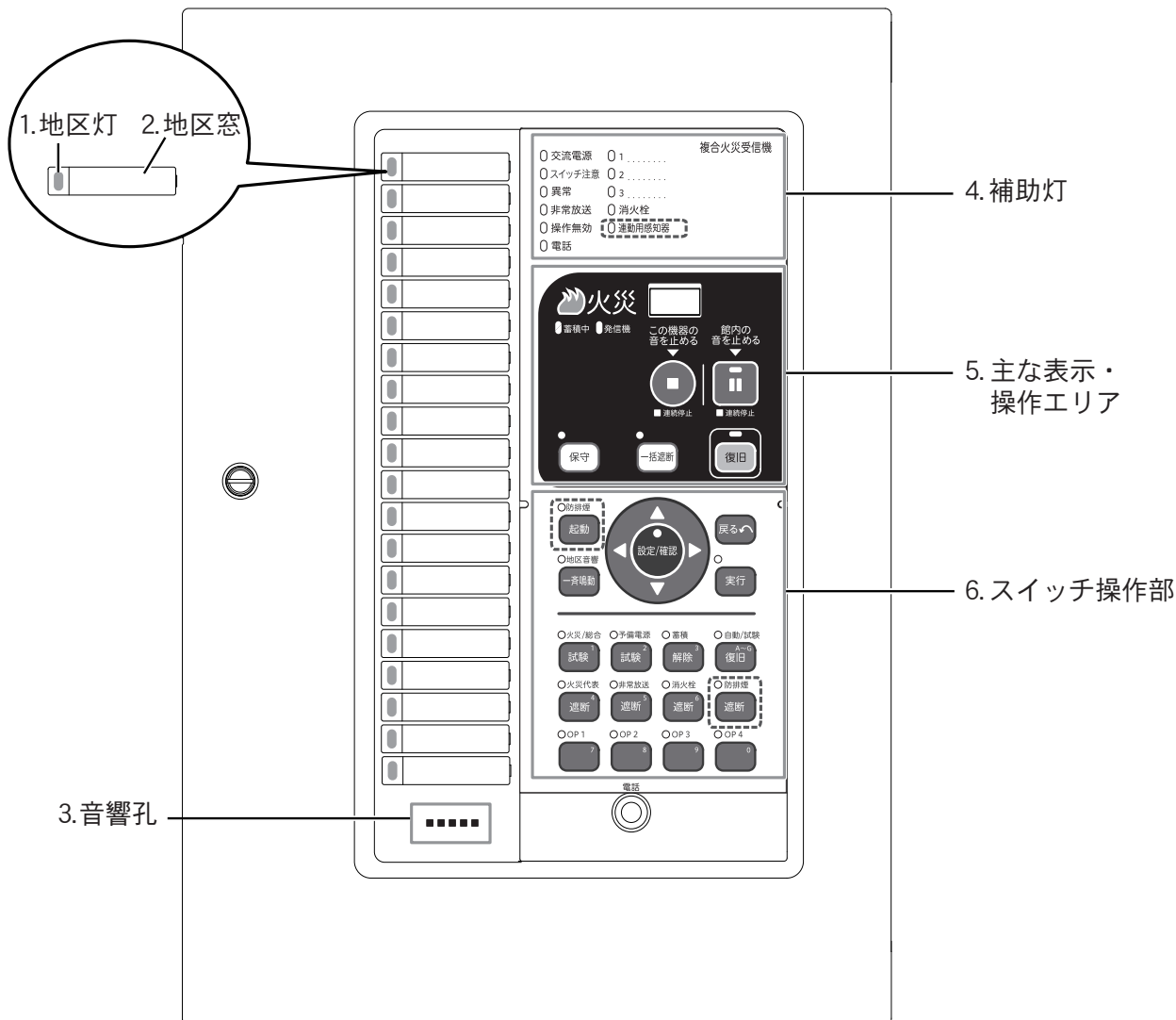
目次

1. 各部の名称と機能.....	2
本体（全体図）の名称と機能.....	2
補助灯の名称と機能.....	3
スイッチ操作部の名称と機能.....	4
音響の種類.....	5
2. 運用の流れ.....	6
3. 平常時の監視状態.....	7
正常な監視状態の確認.....	7
停電のときは.....	7
4. 火災信号（第1報）を受信したら.....	8
5. 火災警報を発したら.....	9
本機の動作と操作.....	9
火災音響、地区音響を停止するには.....	10
付属設備の動作と操作.....	11
6. 火災が鎮火したら.....	15
本機の復旧操作.....	15
7. 異常警報を発したら.....	16
本機の動作と操作.....	16
異常警報一覧.....	17
異常音響を停止するには.....	18

1. 各部の名称と機能

ここでは、運用管理時に使用する本機各部の名称と機能について説明します。

本体（全体図）の名称と機能



*： 図中の破線囲み (---) は、複合火災受信機にのみ存在する補助灯およびスイッチを示します。

1. 地区灯（赤）

火災時や防排煙設備作動時に点灯して火災・作動地区を知らせます。
また、火災回線の断線時には点滅して異常な地区を知らせます。防排煙回線の起動中は点滅して地区を知らせます。
なお、防排煙回線は複合火災受信機にのみあります。

2. 地区窓

地区名称が入っています。

3. 音響孔

本機の音響が鳴るところです。

4. 補助灯

「火災」灯、「電話」灯などの代表表示灯と諸表示灯のことです。

5. 主な表示・操作エリア

警報時などに使用する主なスイッチや表示灯を配置したエリアです。

6. スイッチ操作部

「この機器の音を止める」スイッチなど、本機や付属設備などを制御するときのスイッチがある部分です。「この機器の音を止める」スイッチ、「館内の音を止める」スイッチ以外は、スイッチカバーがかかっています。

補助灯の名称と機能



1. 「交流電源」灯 (緑 (青緑))

本機の交流電源が動作中に点灯し、予備電源が動作中 (停電中) に点滅します。

2. 「スイッチ注意」灯 (赤)

本機のいずれかのスイッチが操作されていると点滅します。

3. 「異常」灯 (黄)

異常時に点灯または点滅します。

4. 「非常放送」灯 (赤)

非常放送中に点灯します。

5. 「操作無効」灯 (赤)

本機が操作無効状態になると点灯します。

6. 「電話」灯 (赤)

発信機、表示機からの電話呼び出し中に点滅し、通話中は点灯します。また、本機に電話プラグを差し込んでいる間、点滅します。

7. 「火災」灯 (赤)

火災時に点滅します。

8. 「蓄積中」灯 (赤)

第1報目の火災信号を受信し、蓄積動作中に点灯または点滅します。

9. 「発信機」灯 (青)

発信機のボタンが押されると点灯します。

10. 諸表示灯 1～3 (赤)

諸表示回路に設定されている機器が作動すると点灯します。

11. 「消火栓」灯 (赤)

発信機からの火災信号で起動する消火栓が起動すると点滅します。

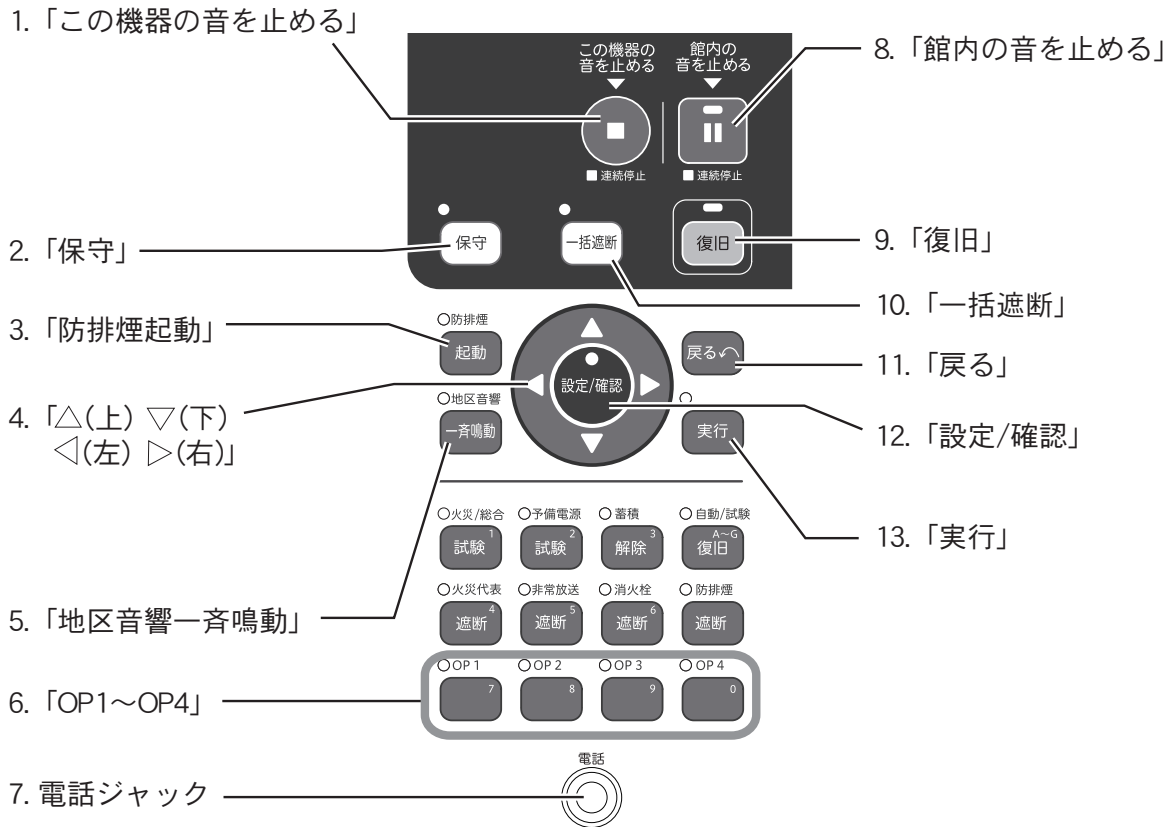
12. 「連動用感知器」灯 (赤) (複合火災受信機の場合のみ)

連動用感知器の作動中に点灯します。

13. デジタル表示

火災時や異常時に回線や発生イベントを表示します。

スイッチ操作部の名称と機能



1. 「この機器の音を止める」スイッチ
火災音響や異常音響、端末作動音響を停止するときに使用します。
2. 「保守」スイッチ
操作無効機能を設定するときに使用します。
3. 「防排煙起動」スイッチ（複合火災受信機の場合のみ）(*)
防排煙設備（端末装置）を起動するときに使用します。
4. 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチ
防排煙設備（端末装置）を起動するときに、回線を選択するために使用します。
また、「◀(左)」スイッチと「▶(右)」スイッチは、火災時の後続送り操作および履歴の確認に使用します。
 - ・「△(上)」スイッチ
回線の番号を増やすときに使用します。
 - ・「▽(下)」スイッチ
回線の番号を減らすときに使用します。
 - ・「◀(左)」スイッチ
回線の桁数を繰り上げるときに使用します。
 - ・「▶(右)」スイッチ
回線の桁数を繰り下げるときに使用します。また、後続送り操作をするときに使用します。

5. 「地区音響一斉鳴動」スイッチ(*)
火災時に地区音響を全館に鳴らすときに使用します。
6. 「OP1～OP4」スイッチ(*)
オプション機能（遮断スイッチなど）として使用します。
7. 電話ジャック
発信機や表示機と電話連絡するときに、電話プラグを差し込んで使用します。
8. 「館内の音を止める」スイッチ(*)
地区音響を停止するときに使用します。
9. 「復旧」スイッチ
本機を火災復旧するときや、防排煙設備の起動操作をしたあとに使用します。
10. 「一括遮断」スイッチ(*)
防排煙設備の連動（複合火災受信機の場合のみ）、消火栓ポンプの連動、非常放送への移報、火災代表の移報、およびオプションスイッチ（遮断）の遮断先への移報を一括で遮断するときに使用します。
11. 「戻る」スイッチ
「防排煙起動」スイッチが押された状態を解除するときに使用します。また、履歴リストを確認するときに、過去の警報などを表示するために使用します。
12. 「設定/確認」スイッチ(*)
履歴リストを確認するときや、操作無効機能を設定するときに使用します。
13. 「実行」スイッチ
防排煙設備（端末装置）を起動するときに使用します。

*： 押してオン状態になると、「スイッチ注意」灯が点滅します。

それぞれのスイッチ上部にある状態灯を「〇〇〇〇」スイッチ灯と呼びます（〇〇〇〇にはスイッチ名が入ります）。

注意



スイッチカバーは操作後必ず閉じてください。引っかけたけがをしたり、誤操作の原因になったりします。



POINT

スイッチ操作について

本機の操作スイッチはすべて押しボタンです。
 スイッチを押すと、スイッチ上部のスイッチ灯が点灯します。また、スイッチの機能説明で、(*)が付いているスイッチを押した場合は、「スイッチ注意」灯が点滅します。
 ただし、スイッチを押している間だけ操作が有効になるものについては、「スイッチ注意」灯は点滅しません。

スイッチ色について

主な用途を考慮し、音を止めるスイッチ（「この機器の音を止める」スイッチ、「館内の音を止める」スイッチ）は赤色、「復旧」スイッチはオレンジ色、その他のスイッチは地色に応じて白色または灰色になっています。

音響の種類

本機の火災や異常などを知らせる音響は、警報の種類をわかりやすくするために電子音に音声を加えたものになっています。音響が鳴ったときは、どのような状態にあるかを確認してください。

音響（電子音／音声）	音響名	状態
ピー／火災発生、現場を確認してください	火災音響	火災時
ピンポン	蓄積音響	蓄積時
ブー ブー／異常が発生しました	異常音響	異常時
ブー／端末装置が作動しました、現場を確認してください	端末作動音響	端末作動時
ブー(*1)	連動用感知器作動音響	連動用感知器作動時
ブッ（10秒に1回）	予備電源作動音響	予備電源作動時
ブッ（約1分に1回）	保守地区音響停止音響	保守地区音響停止時
プルルル プルルル	電話呼び出し音響	電話呼び出し時 (発信機や表示機から本機を呼び出す場合)

*1: 複合火災受信機の場合のみ。

また、本機以外で以下のような音響があります。

- ・ 地区音響
火災時に地区音響装置が鳴らす音響。
- ・ 表示機の音響
警報発生時に表示機が鳴らす音響。音響を停止するまで「ピー」という音が鳴り続けます。



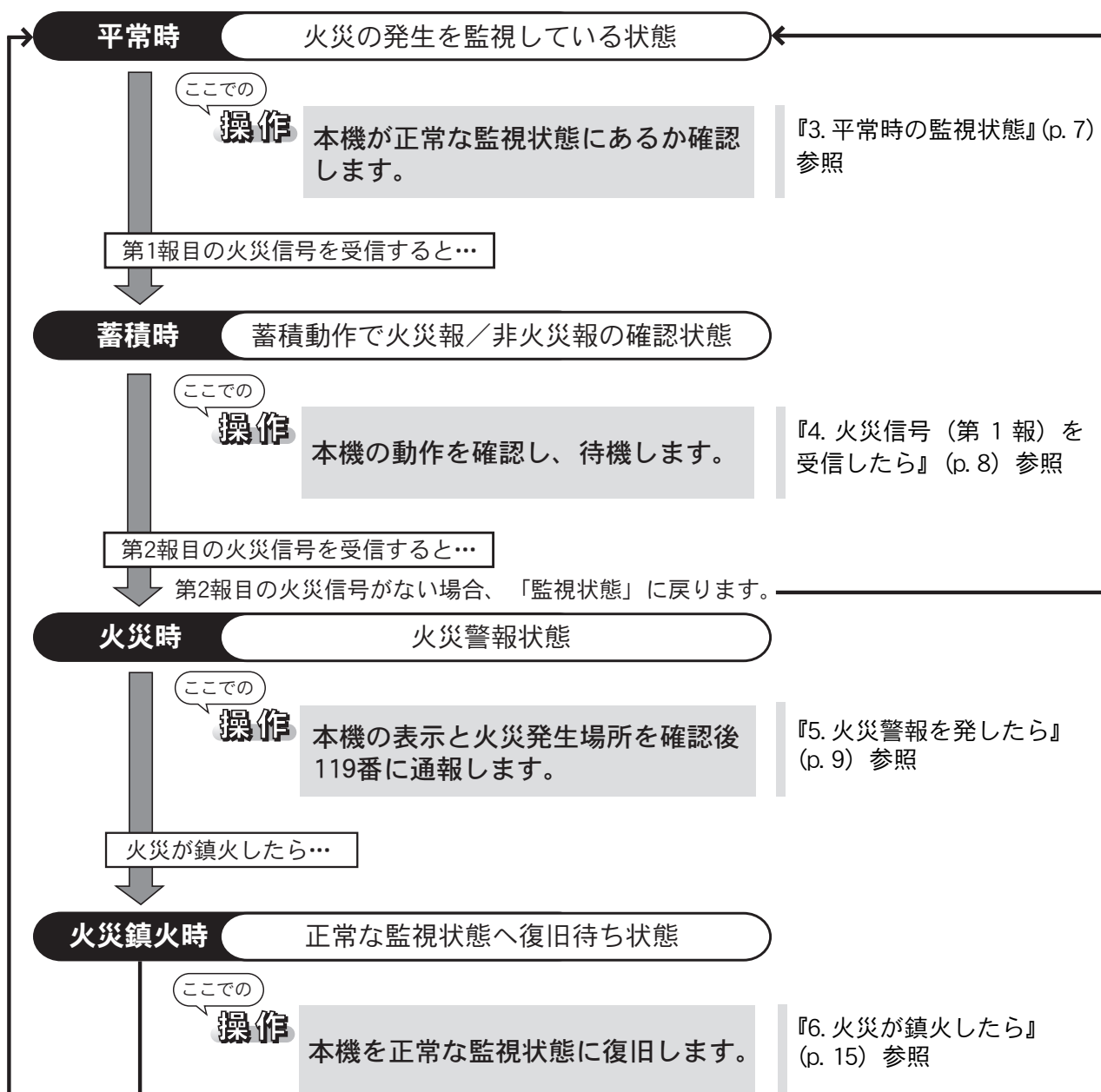
POINT

本機のデータベース設定により、音響が以下のように設定されている場合があります。

- ・ 音声なしの警報音
- ・ 端末作動時に端末作動音響が鳴らない（回線による）

2. 運用の流れ

ここでは、本機の運用の流れについて図示します。



その他、本機や付属設備に異常が発生した場合、本機は異常警報を發します。詳細については、『7. 異常警報を發したら』(p. 16)を参照してください。



電源を入れた直後の本機の動作について

「館内の音を止める」スイッチ、「一括遮断」スイッチが押された状態になり、各スイッチ灯が点灯します。

定期受信回路試験時の本機の動作について

本機では、定期的に受信回路試験が実施されます。試験の詳細や試験時の本機の動作については、『3. 定期受信回路試験』(p. 33)を参照してください。

3. 平常時の監視状態



本機が正常な監視状態にあるか、日頃から確認してください。
正常な監視状態にない場合は、火災時に正しく動作しません。



平常の監視時に、地区音響停止、保守音響停止、保守地区音響停止には絶対に設定しないでください。音響停止に設定すると、火災時に警報音が出ないため、避難・消火活動が遅れるおそれがあります。

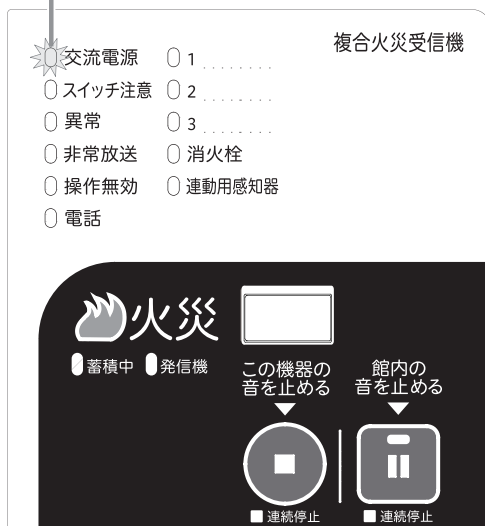
2

3

正常な監視状態の確認

平常時は、本機が以下の状態であることを確認してください。
また、停電時に備えて、予備電源が接続されていることも確認してください。

「交流電源」灯が緑（青緑）色に点灯しています。



「スイッチ注意」灯が消灯していることを確認してください。
「スイッチ注意」灯が点滅している場合、いずれかのスイッチ灯が点灯しています。点灯しているスイッチを確認し、スイッチを押して消灯させてください。スイッチを元に戻さない場合、緊急時に正常に機能しません。

停電のときは

停電時は、電源が自動的に内蔵の予備電源に切り替わり、「交流電源」灯が点滅します。また、10秒に1回の割合で予備電源作動音響が「ブツ」と鳴り、「この機器の音を止める」スイッチ灯が点滅します。

なお、予備電源電圧は徐々に低下しますが、回路電圧の異常を検知する前に復電した場合は、正常な監視状態に戻ります。



POINT

停電状態が続いた場合

予備電源電圧が約 19V 以下に低下すると、デジタル表示に「E 10」（回路電圧異常）が表示され、異常音響が鳴ります。その後、受信機の機能が停止します。

機能停止後に復電すると、「館内の音を止める」スイッチ、「一括遮断」スイッチが押された状態になり、各スイッチ灯が点灯します。

警報が発生していないことを確認後、各スイッチを押して正常な監視状態（「交流電源」灯のみ点灯）にしてください。

4. 火災信号（第1報）を受信したら

感知器が作動し、本機が第1報目の火災信号を受信した場合、蓄積機能が作動します。本機の動作を確認し、次の動作を待ちます。

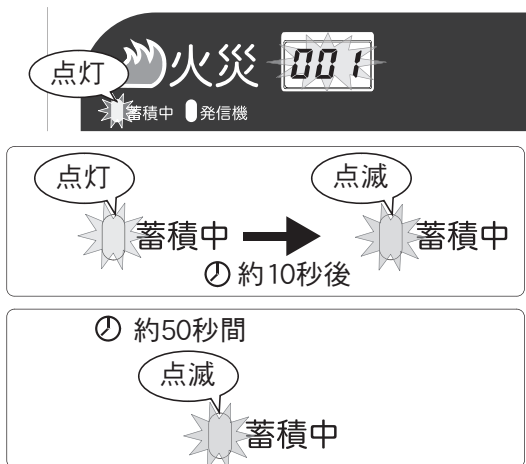


蓄積機能とは

調理、排気、たばこなど、一過性の熱や煙によって感知器が作動してしまうことによる非火災報を防ぐ機能です。火災警報の信頼性を高めるために、感知器からの作動信号を受けてから一定時間内に再び作動信号を受信したときに火災警報を発します。

ただし、発信機ボタンが押された場合は、蓄積機能は作動せず、ただちに火災警報を発します。

蓄積動作中に本機は以下のように動作します。



「ピンポーン」と音響が鳴り、「蓄積中」灯が点灯し、感知器が作動した回線が表示されます。

「蓄積中」灯が約10秒間点灯の状態、感知器が自動的に復旧され、点滅に切り替わります。

「蓄積中」灯が点滅の状態、第2報目の火災信号が送られてくるのを約50秒間待機します。

■火災の場合（蓄積中（「蓄積中」灯が点滅中）に第2報目の火災信号を受信した場合）

実火災と判断し、火災警報を発します。火災時の本機の動作および対処については、『5. 火災警報を発したら』（p. 9）を参照してください。

■非火災の場合（蓄積中（「蓄積中」灯が点滅中）に第2報目の火災信号がなかった場合）

「蓄積中」灯が消灯し、監視状態に戻ります。平常時の監視状態については、『3. 平常時の監視状態』（p. 7）を参照してください。



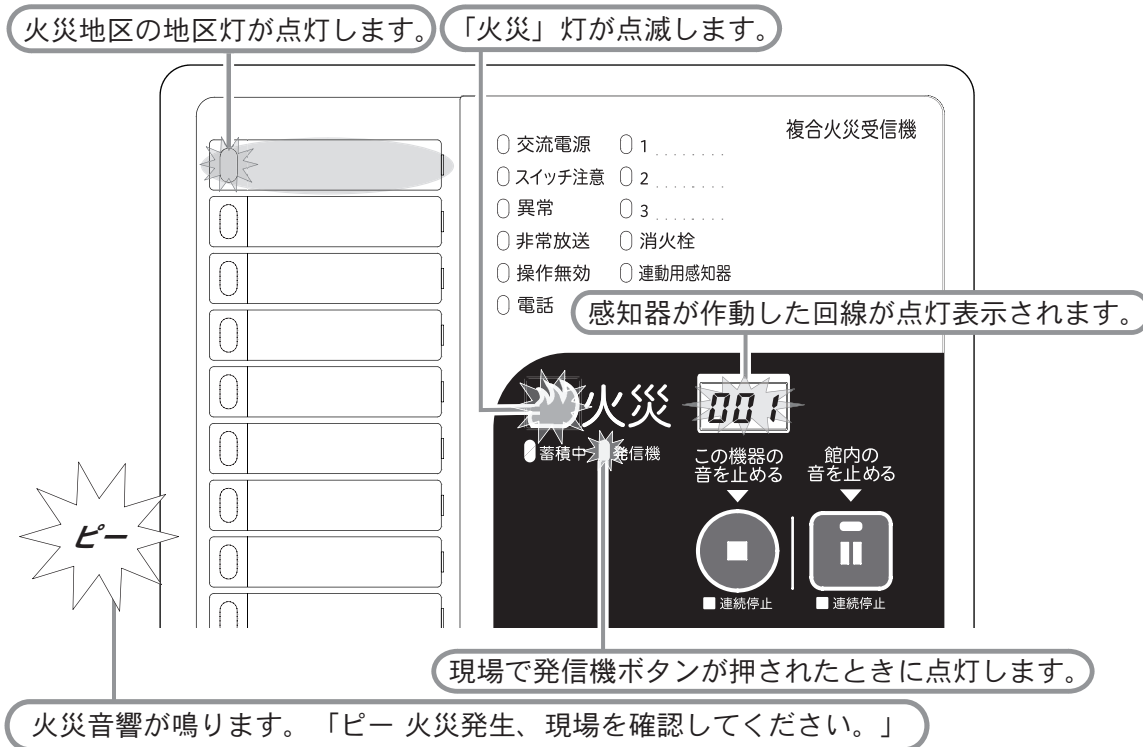
- 蓄積機能が解除されている場合、蓄積機能は作動せず、火災信号の第1報目受信後、ただちに火災警報を発します。
- 蓄積機能の設定、非設定（解除）にかかわらず、一度本機が火災警報を発すると、以降は火災信号受信後ただちに火災警報を発します。

5. 火災警報を発したら

火災時は、火災音響と各階の地区音響が鳴り、本機と付属設備（『付属設備の動作と操作』(p. 11) 参照）は以下のように動作します。落ち着いて対処してください。

本機の動作と操作

ここでは、火災時の本機の動作と、それにもなう操作について説明しています。



また、火災発生と同時に警備保障会社、エレベータ盤などの関連設備、および付属設備（表示機、非常放送、防排煙設備など）に火災信号が送信されます。なお、火災信号の送信先は、本機のデータベースで設定されています。

〈火災時の行動〉

火災時は、以下のとおり行動してください。

- 1 本機の表示を見て、火災地区を確認します。
- 2 現場に行き、火災発生場所の確認、初期消火、避難誘導、および消防署（119番）への通報などを行います。

〈火災警報が複数発生している場合〉

火災警報が複数発生している場合は、デジタル表示に回線などが点滅表示されます。

操作

- 1 以下のスイッチを押して、発報した順に火災警報を確認します（後続送り操作）。最大 20 報まで確認できます。
 - ・「▷(右)」スイッチ
現表示の次に発報した回線が表示されます。
最終発報を表示した状態でスイッチを押すと、第 1 報表示状態に戻ります。
 - ・「◁(左)」スイッチ
現表示の前に発報した回線が表示されます。
第 1 報を表示した状態でスイッチを押すと、最終発報の状態が表示されます。

- ・「▷(右)」スイッチと「◁(左)」スイッチ
2つのスイッチを同時に押すと、第1報の回線が表示されます。



非火災報だったときは

現場を十分に確認した上で、本機を復旧して平常の監視状態に戻してください。
復旧操作については、『6.火災が鎮火したら』(p. 15)を参照してください。



火災音響鳴動中の電話呼び出しについて

火災時は、常に火災音響が優先されます。そのため発信機、表示機からの電話呼び出し音響は鳴らず、「電話」灯の点滅だけになります。

火災音響、地区音響を停止するには

状況によって火災音響や地区音響を停止しなければならない場合は、以下の操作で停止できます。

警告

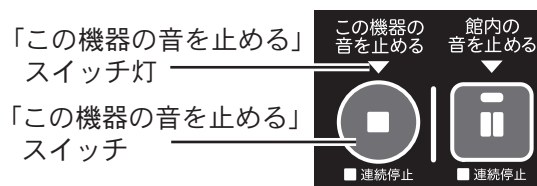


火災時に保守音響停止、保守地区音響停止にしないでください。警報音が出なくなるため、避難・消火活動が遅れるおそれがあります。

■火災音響を停止するには

操作

- 1 「この機器の音を止める」スイッチを押します。
火災音響が停止し、点滅していた「この機器の音を止める」スイッチ灯が消灯します。

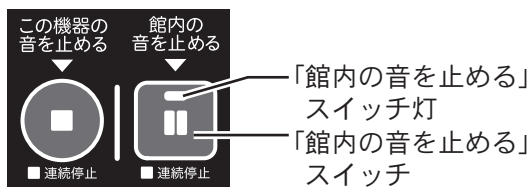


一度火災音響を停止しても、ほかの回線から火災発報があると、再度火災音響が鳴ります。

■地区音響を停止するには

操作

- 1 「館内の音を止める」スイッチを押します。
地区音響がすべて停止します。
「館内の音を止める」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。





地区音響の逐次鳴動と拡大警報について

火災発生時に地区音響停止を自動的に解除する時間を逐次鳴動時間、全館一斉鳴動に移行する時間を拡大警報時間といいます。

なお、逐次鳴動時間は「2、3、4、5、6、7、8」分、拡大警報時間は「なし、4、5、6、7、8、9、10」分のいずれかにデータベースで設定されています。以下は、逐次鳴動時間が3分、拡大警報時間が4分に設定されている場合の動作です。

- ・ 一度地区音響を停止しても、停止後、約3分（逐次鳴動時間）経過すると再度地区音響が鳴ります。
- ・ あらかじめ地区音響を停止しておいても、火災発生後、約3分（逐次鳴動時間）経過すると地区音響が鳴動します。
- ・ 一度地区音響を停止しても、2地区以上で火災が発生した場合、または発信機ボタンが押された場合は、全館一斉（拡大）鳴動に移行します。
- ・ 火災発生後、約4分（拡大警報時間）経過すると地区音響は全館一斉（拡大）鳴動に移行します。
なお、地区音響停止中に約4分（拡大警報時間）経過した場合は、逐次鳴動時間が経過したあとで全館一斉（拡大）鳴動に移行します。
- ・ 全館一斉鳴動に移行すると、「地区音響一斉鳴動」スイッチ灯が点灯します。

付属設備の動作と操作

ここでは、火災時の付属設備の動作と、それにもなう操作について説明しています。接続されている付属設備をあらかじめ確認しておいてください。

付属設備	内容	ページ
地区音響装置	〈火災時にすべての階の地区音響を鳴らすには〉	11
	〈地区音響が鳴る範囲の設定〉	12
防排煙設備（複合火災受信機の場合のみ）	〈防排煙設備を起動するには〉	12
消火栓ポンプ制御機器	〈消火栓ポンプの始動〉	13
消火装置、その他の設備	〈端末作動音響を停止するには〉	13
表示機	〈表示機の音響を停止するには〉	13
	〈表示機から本機を電話呼び出しするには〉	13
非常放送設備	〈非常放送設備への連動移報〉	14
	〈非常放送設備の非常放送中は〉	14

■地区音響装置

〈火災時にすべての階の地区音響を鳴らすには〉

操作

1 「地区音響一斉鳴動」スイッチを押します。

すべての階の地区音響が鳴ります。

「地区音響一斉鳴動」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。



以下の要因で全館一斉（拡大）鳴動に移行した場合、「地区音響一斉鳴動」スイッチ灯は点灯したままで、「スイッチ注意」灯が消灯します。

- ・ 拡大警報時間が経過した場合
- ・ 2地区以上で火災が発生した場合
- ・ 発信機ボタンが押された場合

〈地区音響が鳴る範囲の設定〉

地区音響区分鳴動方式の場合は、出火階とその直上階で鳴るように設定されます。
また、地下階の出火時は、地下全域および1階の地区音響が鳴るように設定されます。



地区音響が鳴る範囲は、本機のデータベースで設定されます。

■防排煙設備（複合火災受信機の場合のみ）



防火戸、防火シャッター、防煙たれ壁などの近くに物を置かないでください。火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大するおそれがあります。

- ・ 防排煙設備の起動（制御）
連動用感知器が作動すると地区灯が点滅し、デジタル表示に回線が表示されます。
また、「連動用感知器」灯が点灯し、連動用感知器作動音響が鳴り、防排煙設備が起動します。
連動用感知器と防排煙設備の回線が分かれてる場合は、起動した防排煙設備の地区灯も点滅します。
- ・ 防排煙設備の作動
作動信号を受信すると、地区灯が点滅から点灯に変わります。
また、端末作動音響が鳴ります。



防排煙設備の作動信号とは

防排煙設備の作動信号とは、関連する装置から受信した作動信号です。
たとえば防火戸を設置している場合、平常時はフック（自動閉鎖装置）で扉が保持されており、連動用感知器が作動するとフックが解除され、防火戸の自重によって作動しますが、本機ではフックが解除された信号を作動信号とみなします。防火戸の近くに物が置かれていた場合、作動の妨げとなり、防火戸が完全に閉鎖しないおそれがあります。現場に行き、防排煙設備が閉鎖していることを確認してください。

〈防排煙設備を起動するには〉

操作

- 1 「防排煙起動」スイッチを押します。
「防排煙起動」スイッチ灯が点灯し、防排煙起動機能に設定されます。
また、デジタル表示が「011」または「006」と点灯して「スイッチ注意」灯および「実行」スイッチ灯が点滅します。
- 2 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して起動回線を選択します。
- 3 「実行」スイッチを押します。
選択した回線の防排煙設備が起動し、地区灯が点滅します。また、「復旧」灯が点滅します。
作動信号を受信すると、地区灯が点滅から点灯に変わります。また、端末作動音響が鳴ります。端末作動音響を停止する場合の操作については、『〈端末作動音響を停止するには〉』（p.13）を参照してください。



本機のデータベース設定で、回線によって端末作動音響が鳴らないように設定されている場合があります。

■消火栓ポンプ制御機器（消火栓連動回路）

〈消火栓ポンプの始動〉

現場で発信機ボタンが押された場合、または易操作性消火栓の作動信号を受信した場合、消火栓ポンプ制御機器に信号を送り、自動的にポンプを始動させます。

本機がポンプの始動信号を受信すると、「消火栓」灯が点滅し、端末作動音響が鳴ります。



POINT

消火栓ポンプ制御機器を始動するには、本機のデータベース設定で消火栓の連動要因を設定する必要があります。

■消火装置、その他の設備

消火装置やその他の設備の作動信号を受信すると、作動した地区の地区灯が点灯し、端末作動音響が鳴ります。

〈端末作動音響を停止するには〉

操作

- 1 「この機器の音を止める」スイッチを押します。
端末作動音響が停止します。



POINT

本機のデータベース設定で、回線によって端末作動音響が鳴らないように設定されている場合があります。

■表示機

本機から表示機へ火災信号などが送られると、表示機では地区灯が点灯し、音響が鳴ります。



POINT

火災警報時に表示機を動作させるには、本機のデータベース設定で地区別移報や表示機音響の設定をする必要があります。

〈表示機の音響を停止するには〉

操作

- 1 表示機の「この機器の音を止める」スイッチ(*1)を押します。
表示機の音響が停止し、スイッチ灯が点灯します。
*1: 表示機の型式によってスイッチの名称は異なります。

〈表示機から本機を電話呼び出しするには〉

操作

- 1 プラグを表示機の電話ジャックに差し込みます。
本機の電話呼び出し音響が鳴り、呼び出します。
- 2 本機側で受話器のプラグを電話ジャックに差し込みます。
通話ができるようになります。

■非常放送設備

〈非常放送設備への連動移報〉

移報出力 (Fn) を階別、地区別 (ブロック別) などに設定し、非常放送設備に階別火災信号と火災確認信号を移報します。非常放送設備は信号を受信して非常放送を行います。

- ・ 感知器発報の放送
非常放送設備が階別火災信号を受信した場合に放送されます。
- ・ 火災放送
 - － 以下の要因で火災確認信号を受信した場合に放送されます。
 - ・ 2地区以上で火災が発生した場合
 - ・ 発信機ボタンが押された場合
 - － 最初の火災警報から一定時間 (2分から5分。非常放送設備側の設定によって異なります) 経過した場合も放送されます。

〈非常放送設備の非常放送中は〉

非常放送中、地区音響は停止し、「非常放送」灯が点灯します。

6. 火災が鎮火したら

火災鎮火後は、本機や付属設備を正常な監視状態に復旧させてください。

注意



火災鎮火前に機器の復旧操作を行わないでください。火災状況の把握が困難になります。また、あわてて復旧操作をすると表示状態の再確認ができなくなり、現場調査に支障をきたすおそれがあります。



まずは発信機の復旧を！

発信機ボタンが押された場合、「発信機」灯が点灯します。

「発信機」灯が点灯している場合、現場で発信機を先に復旧してください。

発信機を復旧する前に本機の「復旧」スイッチを押すと、再度火災警報を発します。

本機の復旧操作

ここでは、火災鎮火後に行う本機の復旧操作について説明しています。



■ 連動して端末装置が作動した場合、またはその他の設備へ火災信号などを移報した場合

「一括遮断」スイッチを押して、作動した消火ポンプや防排煙設備などの端末装置、またはその他の設備への移報を停止させます。そのあと、復旧操作（「復旧」スイッチを押す）を行ってください。

■ 端末装置またはその他の設備を手動で起動した場合

「復旧」スイッチを押して、作動した消火ポンプや防排煙設備などの端末装置、またはその他の設備への起動（制御）を停止させます。そのあと、「戻る」スイッチまたは「防排煙起動」スイッチを押し、「防排煙起動」スイッチ灯が消灯したことを確認してください。

なお、端末装置などの復旧に時間がかかる場合は、必要に応じて保守地区音響停止にしてください。詳細は、『(地区音響が鳴らないようにするには (保守地区音響停止))』(p. 24) を参照してください。

注意



スイッチカバーは、操作後必ず閉じてください。引っかけたけがをしたり、誤操作の原因となります。

操作



- 1 スwitchカバーを開き、オレンジ色の「復旧」スイッチを押します。
- 2 復旧後、点滅または点灯中の地区灯がないこと、およびデジタル表示に何も表示されていないことを確認します。
また、一括遮断や保守地区音響停止などを行った場合は、平常状態に戻してください。
- 3 本機が正常な監視状態であることを確認します。
正常な監視状態については、『正常な監視状態の確認』(p. 7) を参照してください。



7. 異常警報を発したら

本機には、感知器配線や電源、ヒューズなどの状態を常時監視し、それらの故障を自動的に検出して警報する自己診断機能が備えられています。

故障を検出した際には、「異常」灯、地区灯、異常の内容を知らせる番号表示がそれぞれ点滅または点灯し、本機の異常音響が鳴ります。

<p>警告</p> 	<p>機器の異常時はすみやかに保守点検契約先に連絡してください。異常を放置すると、正常に機能しません。</p>
<p>警告</p> 	<p>保守点検者以外の方は、本機や付属設備などの分解や修理をしないでください。故障の原因になります。</p>

本機の動作と操作



*: 図は、感知器回線で断線が発生した場合の本機の状態を示しています。デジタル表示には、異常コード「E87」(点滅)と回線番号(点滅)が切り替え表示されます。

操作

- 1 本機の表示を見て、異常警報の内容を確認します。
異常の内容については、『異常警報一覧』(p. 17)を参照してください。
- 2 異常警報状態を確認したら、保守点検契約先に連絡します。





異常警報時に火災が発生したら

火災が発生するとただちに異常警報を中断し、火災警報に切り替わります。また、火災が復旧すると、異常警報状態に戻ります。

異常警報一覧

本機が異常警報を発した場合、以下を参照して、状況を確認してください。

「デジタル表示」欄で使用している記号は、以下の意味を示しています。

- ・「」は、表示が切り換わることを示しています（0.5秒間隔で表示が切り換わります）。
- ・「」は、回線を示します。

異常警報			警報項目	警報内容
デジタル表示	盤面表示	異常音響		
E00点滅	異常灯点滅	あり	予備電源異常	予備電源未接続 予備電源用ヒューズ (FE) 断線 充電回路の不良 (*1)
E10点滅	異常灯点滅	あり	回路電圧異常	DC24V 電源回路の電圧異常
E20点滅	異常灯点滅	あり	ヒューズ断線	表示灯用 (FP) ヒューズ断線
E21点滅	異常灯点滅	あり		表示機用 (FI) ヒューズ断線
E22点滅	異常灯点滅	あり		感知器用 (FC) ヒューズ断線
E23点滅	異常灯点滅	あり		発信機用 (FA) ヒューズ断線
E24点滅	異常灯点滅	あり		地区ベル用 (FBK) ヒューズ断線
E26点滅 (*2)	異常灯点滅	あり		防排煙用 (FDC) ヒューズ断線
E30点滅	異常灯点滅	あり	伝送異常	メイン CPU - 感知器回路用 CPU 間の伝送異常 (*1)
E40点滅	異常灯点滅	あり	非常放送連動配線の異常	受信機から非常放送機器までの 配線の断線
E41点滅	異常灯点滅	あり		受信機から非常放送機器までの 配線の短絡
—	異常灯点灯	あり	CPU 異常	メイン CPU の異常 (*1)
E50点滅	異常灯点滅	あり	メモリ異常	MAIN 基板上的の EEPROM または RTC の異常 (*1)
E51点滅	異常灯点滅	あり	DB 異常	データベース設定で初期設定 (機種・回線数) の誤り
E60.   点滅	異常灯点滅	あり	定期受信回路試験異常	定期受信回路試験の異常 (*1)
E70点滅	異常灯点滅	なし	スピーカ脱落	スピーカ線の異常
E87.   点滅	異常灯点滅 地区灯点滅	あり	感知器配線断線	受信機外線端子から終端までの 配線の断線

*1: MAIN 基板上的の故障です。

*2: 複合火災受信機の場合のみ。

異常音響を停止するには

異常音響は、異常から復旧すると自動的に停止しますが、必要に応じて、復旧前に以下の操作で異常音響を停止できます。

操作

1 「この機器の音を止める」スイッチを押します。

異常音響が停止します。

ただし、一度異常音響を停止しても、ほかの異常信号を受信すると、再度異常音響が鳴ります。



本機内の CPU が異常の場合、デジタル表示には何も表示されず、「異常」灯が点灯したままになります。異常音響が鳴り続けますが、この異常音響はスイッチによって止めることはできませんので、すみやかに保守点検契約先に修理を依頼してください。

保守点検編

目次

1. 各部の名称と機能.....	20
補助灯の名称と機能.....	20
スイッチ操作部の名称と機能.....	21
2. 保守点検試験.....	23
準備.....	23
火災試験.....	26
予備電源試験.....	30
蓄積時間試験.....	32
自動復旧による感知器作動試験.....	32
試験復旧による感知器作動試験.....	33
3. 定期受信回路試験.....	33

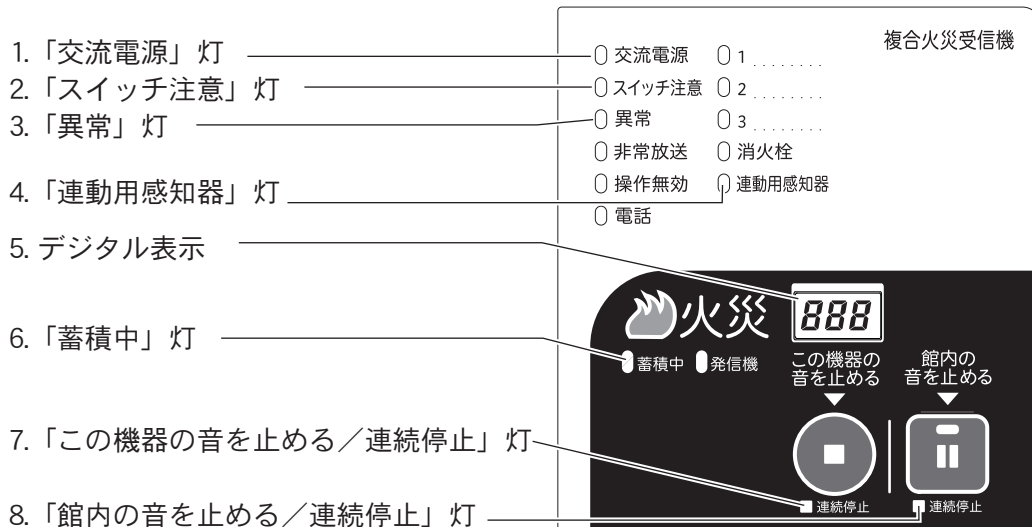
1. 各部の名称と機能

ここでは、保守点検時に使用する本機各部の名称と機能について説明します。

なお、「本体（全体図）の名称と機能」および「音響の種類」に関しては、運用管理編の『1. 各部の名称と機能』（p. 2）を参照してください。

補助灯の名称と機能

運用管理と重複する機能や名称については、運用管理編の『補助灯の名称と機能』（p. 3）を参照してください。



1. 「交流電源」灯（緑（青緑））

予備電源試験中、本機の電源が予備電源に切り替わっても点灯し続けます。

2. 「スイッチ注意」灯（赤）

本機のいずれかのスイッチが入っていると点滅します。

3. 「異常」灯（黄）

異常時に点灯または点滅します。

4. 「連動用感知器」灯（赤）（複合火災受信機の場合のみ）

火災試験時に点灯します。

5. デジタル表示

試験時の回線、履歴リスト確認時の日時、発生イベント、または予備電源試験時の予備電源電圧値を表示します。

6. 「蓄積中」灯（赤）

試験による蓄積中に点灯または点滅します。

7. 「この機器の音を止める／連続停止」灯（赤）

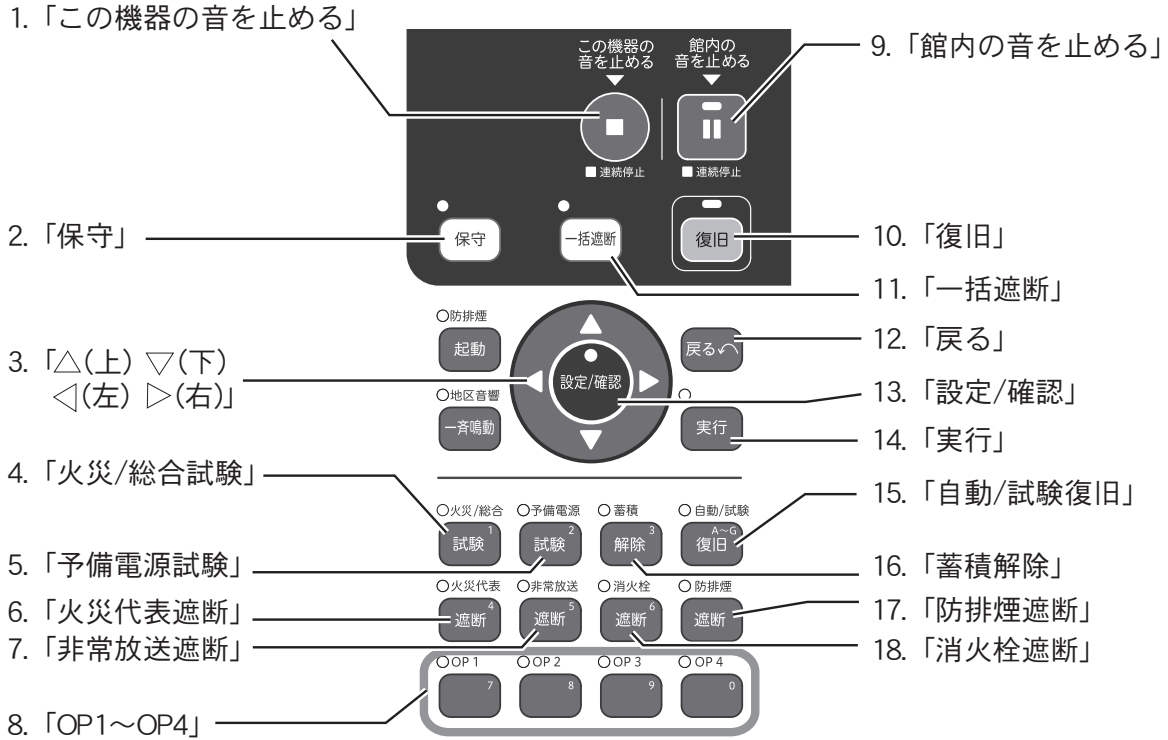
保守音響の停止中に点滅し、保守異常音響の停止中に点灯します。

8. 「館内の音を止める／連続停止」灯（赤）

保守地区音響の停止中に点滅します。

スイッチ操作部の名称と機能

運用管理と重複する機能や名称については、運用管理編の『スイッチ操作部の名称と機能』（p. 4）を参照してください。



1. 「この機器の音を止める」スイッチ

火災音響や異常音響、端末作動音響を停止するときに使用します。
また、試験前に保守音響停止に設定するときに使用します。
p. 23 を参照してください。

2. 「保守」スイッチ

試験前に保守音響停止、保守異常音響停止、または保守地区音響停止に設定するとき使用します。
p. 23、p. 24 を参照してください。

3. 「△(上)」「▽(下)」「◁(左)」「▷(右)」スイッチ

試験時に回線を選択するために使用します。また、履歴リストを確認するときに使用します。
「▷(右)」スイッチは、保守異常音響停止に設定するときに使用します。

- ・「△(上)」スイッチ
回線の番号を増やすことができます。
- ・「▽(下)」スイッチ
回線の番号を減らすことができます。
- ・「◁(左)」スイッチ
回線の桁数を繰り上げることができます。
- ・「▷(右)」スイッチ
回線の桁数を繰り下げることができます。

p. 24、p. 26、p. 32、p. 39 を参照してください。

4. 「火災/総合試験」スイッチ(*)

火災試験、総合試験を開始するときに使用します。
p. 26、p. 28 を参照してください。

5. 「予備電源試験」スイッチ(*)

予備電源試験を開始するときに使用します。
p. 30 を参照してください。

6. 「火災代表遮断」スイッチ(*)

試験前に火災代表の移報を遮断するときに使用します。
p. 25 を参照してください。

7. 「非常放送遮断」スイッチ(*)

試験前に非常放送の連動を遮断するときに使用します。
p. 25 を参照してください。

8. 「OP1～OP4」スイッチ(*)

オプション機能（遮断スイッチなど）として使用します。
p. 25 を参照してください。

9. 「館内の音を止める」スイッチ(*)

地区音響を停止するときに使用します。また、試験前に保守地区音響停止に設定するときに使用します。
p. 24 を参照してください。

10. 「復旧」スイッチ

火災試験を終了するとき、または総合試験で異常が検出された場合の復旧操作に使用します。
p. 27、p. 30 を参照してください。

11. 「一括遮断」スイッチ(*)

試験前に防排煙設備の連動（複合火災受信機の場合のみ）、消火栓ポンプの始動、非常放送への移報、および火災信号の移報を一括で遮断するときに使用します。
p. 25 を参照してください。

12. 「戻る」スイッチ

試験を終了するときに使用します。また、日時設定中や履歴リストの確認中に、デジタル表示の表示項目を戻すときに使用します。
p. 30、p. 36、p. 40 を参照してください。

13. 「設定 / 確認」スイッチ(*)

履歴リストを確認するときに使用します。
p. 39 を参照してください。

14. 「実行」スイッチ

試験を実行するときに使用します。
p. 26、p. 28、p. 30、p. 32 を参照してください。

15. 「自動 / 試験復旧」スイッチ(*)

自動復旧または試験復旧に設定するときに使用します。
p. 32、p. 33 を参照してください。

16. 「蓄積解除」スイッチ(*)

試験前に蓄積解除設定にするときに使用します。
p. 24 を参照してください。

17. 「防排煙遮断」スイッチ（複合火災受信機の場合のみ）(*)

試験前に防排煙設備の連動を遮断するときに使用します。
p. 25 を参照してください。

18. 「消火栓遮断」スイッチ(*)

試験前に消火栓ポンプの始動を遮断するときに使用します。
p. 25 を参照してください。

*： 押してオン状態になると、「スイッチ注意」灯が点滅します。

なお、それぞれのスイッチ上部にある状態灯を「○○○○」スイッチ灯と呼びます（○○○○にはスイッチ名が入ります）。

注意



スイッチカバーは操作後必ず閉じてください。引っかけたけがをしたり、誤操作の原因になったりします。






スイッチ操作について

本機の操作スイッチはすべて押しボタンです。

スイッチを押すと、スイッチ上部のスイッチ灯が点灯します。また、スイッチの機能説明で、(*)が付いているスイッチを押した場合は、「スイッチ注意」灯が点滅します。

ただし、スイッチを押している間だけ操作が有効になるものについては、「スイッチ注意」灯は点滅しません。

2. 保守点検試験

 警告	連動している設備の内容を十分確認して操作してください。 不用意の操作は、機器類に損害を与え、人に危害を与えるおそれがあります。
 注意	スイッチカバーは、操作後必ず閉じてください。引っかけたけがをしたり誤操作の原因となります。
 注意	試験後、スイッチ灯が点灯しているスイッチを押して、スイッチ灯および「スイッチ注意」灯を消灯させてください。 「スイッチ注意」灯を消灯させ、正常な監視状態にしないと、火災時に正常に動作せず被害を防止できなくなります。

本機には、保守点検時に使用する試験用スイッチがスイッチカバー内に設けられています。試験は感知器の加煙・加熱試験を必要とする場合もあり、原則として保守点検契約先から派遣される保守点検者が試験を実施することになっています。

試験にあたり、本機の音響や地区音響の連続停止、蓄積動作の解除、付属設備の連動の遮断を設定できます。各設定については、『準備』(p. 23)を参照してください。





POINT

各試験結果は履歴リストに記憶されます。確認方法については、『履歴リストを確認するには』(p. 39)を参照してください。

準備

保守点検試験をする前に、以下の準備で試験環境を設定できます。
必要に応じて設定してください。

 警告	試験前に本機の音響や地区音響を連続停止に設定した場合、試験後に必ず解除してください。解除しなかった場合、火災時に警報音が出ないため、避難・消火活動が遅れるおそれがあります。
 警告	試験前に禁止した設定は、試験後に必ず解除してください。解除しなかった場合、火災時に機能しません。

■本機の音響、地区音響の連続停止設定

試験火災による火災信号で、本機の音響または地区音響が鳴らないように設定します。

〈本機の音響が鳴らないようにするには（保守音響停止）〉

本機の火災音響、異常音響、端末作動音響、および連動用感知器作動音響を連続停止します。

操作

- 1 「保守」スイッチを押します。**
「保守」スイッチ灯が点灯します。
- 2 「保守」スイッチ灯が点灯中に、「この機器の音を止める」スイッチを3秒間押しします。**
保守音響停止に設定されます。
このとき、「この機器の音を止める／連続停止」スイッチ灯および「スイッチ注意」灯が点滅し、音響を連続停止します。
なお、本機の音響だけでなく、表示機の音響も連続停止されます。

〈本機の異常音響が鳴らないようにするには（保守異常音響停止）〉

本機の異常音響を連続停止します。

操作

- 1 「保守」スイッチを押します。
「保守」スイッチ灯が点灯します。
- 2 「保守」スイッチ灯が点灯中に、「▷(右)」スイッチを3秒間押します。
保守異常音響停止に設定されます。
このとき、「この機器の音を止める／連続停止」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅し、音響を連続停止します。

〈地区音響が鳴らないようにするには（保守地区音響停止）〉

操作

- 1 「保守」スイッチを押します。
「保守」スイッチ灯が点灯します。
- 2 「保守」スイッチ灯が点灯中に、「館内の音を止める」スイッチを3秒間押します。
保守地区音響停止に設定されます。
このとき、「館内の音を止める／連続停止」スイッチ灯および「スイッチ注意」灯が点滅し、地区音響を連続停止します。また、「ブツ」という保守地区音響停止音響が約1分に1回鳴ります。
なお、保守地区音響停止音響を停止することはできません。



保守音響停止、保守異常音響停止、保守地区音響停止の解除を忘れずに！

保守音響停止、保守異常音響停止、および保守地区音響停止は必ず解除してください。それぞれ以下の操作で解除できます。

■ 保守音響停止、保守地区音響停止を解除する場合

- 1 「保守」スイッチを押します。
- 2 「この機器の音を止める」スイッチ（保守地区音響停止解除の場合は、「館内の音を止める」スイッチ）を押します（3秒間押す必要はありません）。

■ 保守異常音響停止を解除する場合

- 1 「保守」スイッチを押します。
- 2 「▷(右)」スイッチを押します（3秒間押す必要はありません）。

■ 蓄積動作の解除設定

試験火災による火災信号で、本機が蓄積動作をしないように設定（蓄積解除に設定）します。

操作

- 1 「蓄積解除」スイッチを押します。
蓄積解除状態に設定されます。
「蓄積解除」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。



蓄積解除状態の解除を忘れずに！

蓄積解除設定は、「蓄積解除」スイッチを再度押して解除してください。

■ 付属設備の連動遮断、移報遮断設定

試験火災による火災信号で、付属設備が連動や移報しないように設定します。

〈付属設備の連動および移報を一括で遮断するには〉

操作

1 「一括遮断」スイッチを押します。

以下の連動および移報が遮断されます。

- ・ 防排煙設備の連動（複合火災受信機の場合のみ）
- ・ 消火栓ポンプの始動
- ・ 非常放送への移報
- ・ 火災代表の移報
- ・ オプションスイッチで遮断に設定した移報

また、「一括遮断」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

〈防排煙設備の連動を遮断するには（複合火災受信機の場合のみ）〉

防排煙設備が火災時に連動して起動しないように起動信号を遮断します。

操作

1 「防排煙遮断」スイッチを押します。

防排煙設備の連動が遮断されます。

「防排煙遮断」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

〈消火栓ポンプの始動を遮断するには〉

操作

1 「消火栓遮断」スイッチを押します。

消火栓ポンプへの始動信号が遮断されます。

「消火栓遮断」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

〈非常放送への移報を遮断するには〉

操作

1 「非常放送遮断」スイッチを押します。

階別火災信号と火災確認信号出力が遮断されます。

「非常放送遮断」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

〈火災代表（火災代表移報：FA-FB-FC 端子）の移報を遮断するには〉

火災警報状態になると、火災代表信号が移報されますが、この信号を遮断できます。

操作

1 「火災代表遮断」スイッチを押します。

火災信号の移報が遮断されます。

「火災代表遮断」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。

〈オプションスイッチで遮断に設定した移報を遮断するには〉

操作

1 オプションスイッチ（遮断）を押します。

移報先への火災信号などの移報が遮断されます。

オプションスイッチのスイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。



付属設備の連動遮断、移報遮断の解除を忘れずに！

付属設備の連動遮断、移報遮断設定は、それぞれのスイッチを再度押して解除してください。

火災試験

火災試験には以下の2通りがあり、各回線の火災警報機能が正常であるかを確認します。

- ・ **火災試験（回線ごと）**
本機の表示・警報・連動機能が正常に動作するかを確認します。
- ・ **総合試験**
本機の補助灯、スイッチ灯、全回線の地区灯の点灯試験、および火災受信回路の試験を実施します。

■火災試験の方法



火災試験の準備について

火災試験では、自動的に一括遮断状態になります。

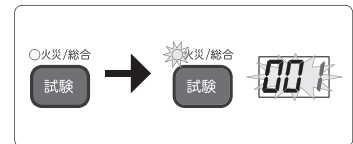
必要に応じて一括遮断状態を解除し、『準備』(p. 23) を実施してください。

操作

1 「火災 / 総合試験」スイッチを押します。

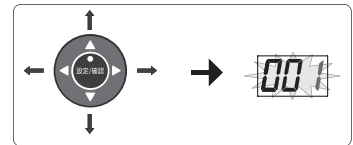
「火災 / 総合試験」スイッチ灯が点灯し、火災試験状態になります。

デジタル表示に「001」と表示され、「一括遮断」スイッチ灯が点灯します。また、「スイッチ注意」灯および「実行」スイッチ灯が点滅します。



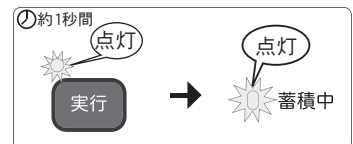
2 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、回線を選択します。

デジタル表示に選択した回線が表示されます。



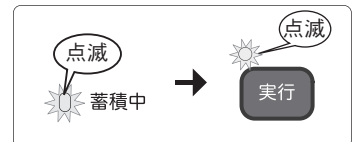
3 「実行」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯が約1秒間点灯し、蓄積動作を開始します。蓄積解除されている場合、「実行」スイッチを押すと、ただちに火災警報状態になりますので、操作5に進んでください。



4 「蓄積中」灯が点滅に変わってから、再度「実行」スイッチを押します。

選択した回線が火災警報状態になります。



5 受信機の動作および地区音響の鳴動を確認します。

■ 選択した回線が火災回線の場合

火災音響、地区音響の鳴動、「火災」灯の点滅、および地区灯の点灯を確認します。
防排煙設備の連動を設定している場合は、地区灯が以下のとおり表示されることを確認します。

- ・ 防排煙設備が起動すると地区灯が点滅する
- ・ 防排煙設備が作動すると地区灯が点灯する

保守音響停止、保守地区音響停止に設定されている場合は、火災音響および地区音響は鳴りませんので、「火災」灯と地区灯を確認してください。

また、一括遮断状態の場合は火災信号は遮断されますので、防排煙設備の地区灯の点滅を確認してください。

■ 選択した回線が防排煙回線の場合（複合火災受信機の場合のみ）

連動用感知器作動音響の鳴動、「連動用感知器」灯の点灯、および地区灯の表示を確認します。

地区灯は以下のとおり表示されます。

- ・ 防排煙設備が起動すると地区灯が点滅する
- ・ 防排煙設備が作動すると地区灯が点灯する

保守音響停止に設定されている場合は、連動用感知器作動音響は鳴りませんので、「連動用感知器」灯と地区灯を確認してください。

また、一括遮断状態の場合は連動用感知器作動信号は遮断されますので、防排煙設備の地区灯の点滅を確認してください。



POINT

別回線の火災試験をするには

■ 火災試験状態を復旧してから、別回線の火災試験を開始する場合

1 「復旧」スイッチを押します。

火災警報状態から復旧します。

2 再度、操作 2 (p. 26) の回線選択から操作します。

■ 火災試験状態を復旧せずに別回線の火災試験を続ける場合

復旧せずに続けて試験を実施する場合、5 回線までとしてください。

1 再度、操作 2 (p. 26) の回線選択から操作します。



STOP!

火災試験中に火災などが発生したら

火災試験中にいずれかの回線が、火災・連動用感知器の作動信号（蓄積動作を含む）を受信した場合、自動的に火災試験が解除され、警報状態になります（蓄積解除していない場合は、蓄積状態になります）。

■火災試験の結果

〈正常なときは〉

試験を実施した回線に対し、火災警報状態となります。

〈異常を検出したときは〉

異常を検出すると、異常音響が鳴り、以下のように動作します。



■総合試験の方法

この試験では、本機の補助灯、スイッチ灯、全回線の地区灯の点灯試験、および全回線の火災受信回路の試験を実施します。火災受信回路の試験は、1回線から順次自動的に実施します。



総合試験では、火災信号の移報や付属設備への移報はしないため、『準備』(p. 23) の設定は必要ありません。

操作

1 「火災 / 総合試験」スイッチを2回押します。

「火災 / 総合試験」スイッチ灯が点滅し、総合試験状態となります。「スイッチ注意」灯および「実行」スイッチ灯が点滅します。

2 「実行」スイッチを押します。

総合試験終了まで「実行」スイッチ灯が点灯し、以下の試験を順次自動的に実施します。

- ・ 全補助灯（火災灯、電話灯などの代表表示、諸表示）の点灯試験
- ・ 全スイッチ灯の点灯試験
- ・ 火災受信回路の試験

この試験では、全回線の火災受信回路の試験および全地区灯の点灯試験をします。火災受信回路の試験時には、火災音響、連動用感知器作動音響、および地区音響は鳴りません。試験回線に合わせ、順次地区灯が点灯していきます。

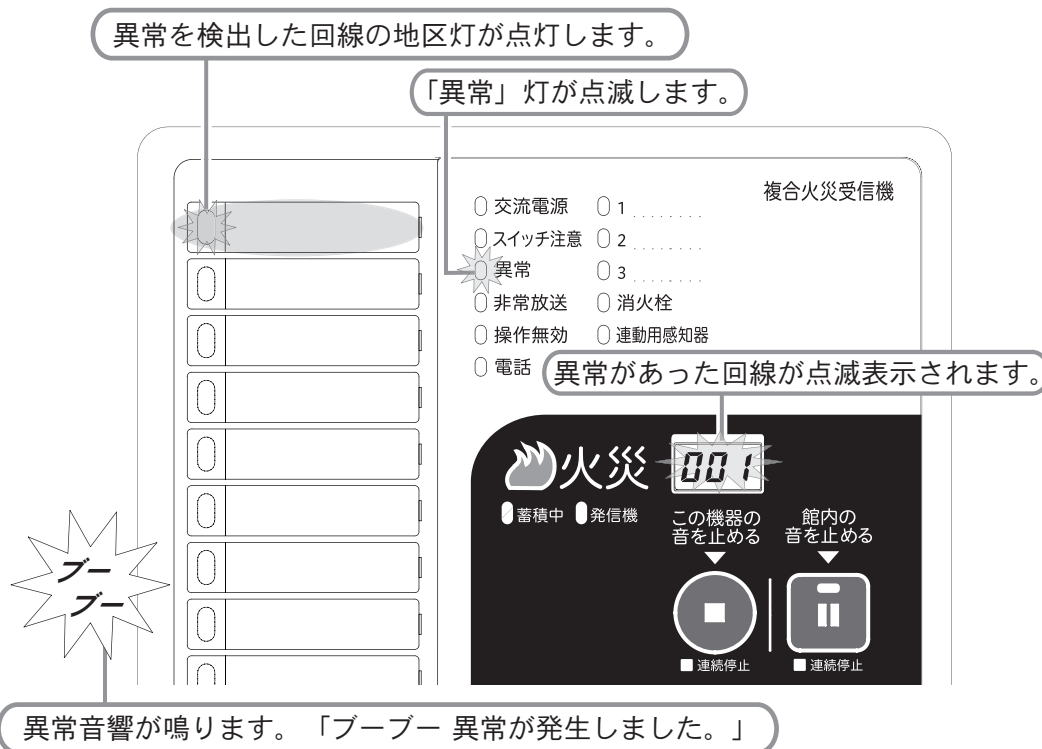
■総合試験の結果

〈正常なときは〉

すべての回線の地区灯が順次点灯します。また、異常が検出されたあとも試験を続けた場合は、異常回線の次の回線から地区灯が順次点灯します。総合試験終了後は、操作したスイッチを元に戻して監視状態にしてください。

〈異常を検出したときは〉

異常を検出すると、異常音響が鳴り、以下のように動作します。なお、試験は、異常が検出された回線で停止します。



POINT

異常が検出されたあとも試験を続けるときは

異常が検出された回線がデジタル表示に表示されている間に、スイッチ灯が点滅している「実行」スイッチを押してください。異常警報状態から復旧し、次の回線から試験を継続します。



STOP!

異常時は復旧操作をして、スイッチを元に戻してから調査、修理してください。復旧操作については、『6. 火災が鎮火したら』(p. 15)を参照してください。



STOP!

総合試験中に火災などが発生したら

総合試験中にいずれかの回線が、火災・連動用感知器の作動信号（蓄積動作を含む）を受信した場合、自動的に総合試験が解除され、警報状態になります（蓄積解除していない場合は、蓄積状態になります）。

■各試験の終了方法

操作

1 以下のどちらかの方法で、本機を元の状態に戻します。

■「火災 / 総合試験」スイッチを押す。

■「戻る」スイッチを2回押す。



POINT

火災試験は上記の操作でも終了できますが、原則として以下の操作で終了するようにしてください。

1 (上記操作1のあとに)「復旧」スイッチを押します。

試験状態が解除されます。

2 火災警報状態が復旧したのを確認して、操作したスイッチを押して元に戻します。

予備電源試験

警告



保守点検者以外は本機内部に手を触れないでください。
感電・故障のおそれがあります。

この試験では、本機に予備電源として内蔵されている蓄電池に、停電時の定格負荷を与えることで予備電源電圧を試験し、予備電源電圧値を確認します。
試験中は回路電源が予備電源に切り替わりますが、「交流電源」灯は点灯したままです。なお、停電時に予備電源試験はできません。

■予備電源試験の方法

操作

1 「予備電源試験」スイッチを押します。

「予備電源試験」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯および「実行」スイッチ灯が点滅します。

2 「実行」スイッチを押します。

「実行」スイッチ灯は、予備電源試験中点灯し続けます。

試験中には、デジタル表示に予備電源電圧値が「2桁+小数点第1位」(小数点第2位以下は四捨五入)で表示されます。



POINT

予備電源の試験継続時間は20秒間です。20秒間以上予備電源試験の操作をする場合、「実行」スイッチを操作している間だけ試験時間が延長されます。

■予備電源試験の結果

〈正常なときは〉

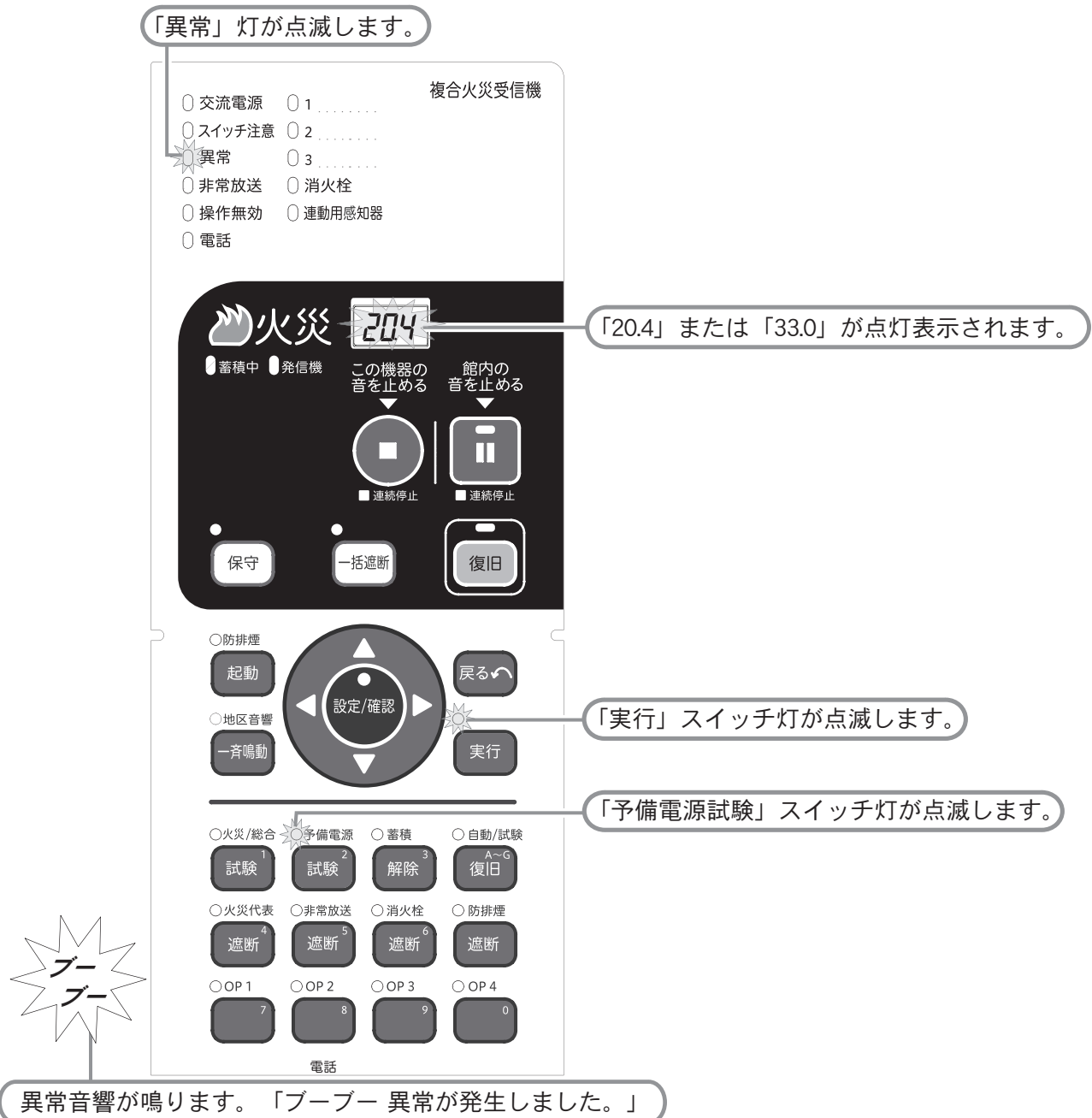
デジタル表示に最終電圧値が表示され、「実行」スイッチ灯が点滅します。

〈異常のときは〉

予備電源電圧値が規定電圧から外れた（20.4V 未満、33.0V 以上、または予備電源脱落）場合、異常と判定され、異常音響が鳴り、下図のように動作します。

なお、デジタル表示には、以下のように表示されます。

- ・ 予備電源電圧値が 20.4V 未満の場合、「20.4」
- ・ 予備電源電圧値が 33.0V 以上または予備電源脱落の場合、「33.0」



予備電源が十分に充電されていても異常となる場合は、蓄電池の劣化などが考えられます。保守点検者が対処してください。

異常時は、回路電圧を正常に維持するために、回路電源が予備電源から交流電源に自動的に切り替わります。ただし、予備電源試験を終了するまで異常警報状態は続きます。

■予備電源試験の終了方法

操作

- 1 「予備電源試験」スイッチを押します。
平常時の監視状態に戻ります。



予備電源試験中に火災などが発生したら

予備電源試験中にいずれかの回線が、火災・連動用感知器の作動信号（蓄積動作を含む）を受信した場合、自動的に予備電源試験が解除され、警報状態になります（蓄積解除していない場合は、蓄積状態になります）。

蓄積時間試験

この試験では、本機の蓄積機能と蓄積時間を確認します。
なお、試験にあたり、蓄積時間を測定するストップウォッチなどを準備してください。

■蓄積時間試験の方法

操作

- 1 「火災 / 総合試験」スイッチを押します。
火災試験状態になります。
- 2 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、蓄積解除されていない回線を選択します。
- 3 「実行」スイッチを押したあと、蓄積中の時間をストップウォッチなどで測定します。
「実行」スイッチを押すと火災試験が開始され、「蓄積中」灯が点灯します。
「蓄積中」灯が点灯から点滅に変わり、約 50 秒後に消灯します。



蓄積時間が正常な場合は、以下のようになります。

- ・ 公称蓄積時間（点灯と点滅の合計時間）が 60 秒以下
- ・ 熱感知器蓄積時間（点灯時間）が 10 秒以下
- ・ 煙感知器蓄積時間（点灯と点滅の合計時間）が 60 秒以下

自動復旧による感知器作動試験

自動復旧とは、火災信号を自己保持した感知器（一度火災検出すると、火災状態を保持する機能を持った感知器）が作動した約 8 秒後に、感知器用電源を遮断して感知器を復旧させる機能です。これにより、手動で火災試験を復旧せずに順次試験を実施できます。

■自動復旧の設定方法

操作

- 1 「自動 / 試験復旧」スイッチを 1 回押します。
蓄積機能が解除されます。
「自動 / 試験復旧」スイッチ灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。
連続した火災信号を受信中に、約 8 秒間経過すると自動的に感知器を復旧させ、その動作を繰り返します。

■ 自動復旧の解除方法

操作

- 1 「自動／試験復旧」スイッチを2回押します。
平常時の監視状態に戻ります。



POINT

「自動／試験復旧」スイッチの自動解除

「自動／試験復旧」スイッチを操作後、万一元に戻すのを忘れても、自動／試験復旧の各状態は、約60分間何も入力がないと自動的に解除され、平常時の監視状態に戻ります。

試験復旧による感知器作動試験

試験復旧とは、感知器が復旧すると本機も復旧するように、本機の自己保持機能を解除する機能です。これにより、手動で火災試験を復旧せずに順次試験を実施できます。この機能は、自己保持機能を持たない熱式感知器（主に差動式分布型感知器）の試験に適しています。

■ 試験復旧の設定方法

操作

- 1 「自動／試験復旧」スイッチを2回押します。
蓄積機能が解除されます。
「自動／試験復旧」スイッチ灯が点滅し、「スイッチ注意」灯が点滅します。
自己保持機能を持たない感知器が復旧するまで火災警報状態になります。

■ 試験復旧の解除方法

操作

- 1 「自動／試験復旧」スイッチを1回押します。
平常時の監視状態に戻ります。



POINT

「自動／試験復旧」スイッチの自動解除

「自動／試験復旧」スイッチを操作後、万一元に戻すのを忘れても、自動／試験復旧の各状態は、約60分間何も入力がないと自動的に解除され、平常時の監視状態に戻ります。

3. 定期受信回路試験

本機には、各回線の火災受信回路を自動的に試験する定期受信回路試験機能が備わっています。

定期受信回路試験は、毎週月曜日10時（固定）に実施されます。

定期受信回路試験中は、本機は特に動作しません。試験が終了すると、履歴リストに試験結果が記憶されます。

付 録

目 次

A. 日時設定	36
B. 点減周期について	37
C. 履歴リストについて	39
履歴リストを確認するには	39
履歴リストを消去するには	40
履歴一覧	41
D. 後続送り操作について	44
E. 電話の取り扱いについて	44
F. 操作無効機能	44
操作無効機能を設定するには	45
操作無効機能を解除するには	45
G. 仕様	46

A. 日時設定

ここでは、本機の日時設定の方法について説明します。

本機は日時未設定の状態でも運用できますが、履歴リストに正しい日時が記録されるよう、日時設定を行うことを推奨します。

(例) 西暦 2012 年 5 月 10 日午後 2 時 30 分に設定する場合

操作

- 1 「設定 / 確認」スイッチを押します。**
「設定 / 確認」スイッチ灯が点滅し、「スイッチ注意」灯が点滅します。
- 2 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、デジタル表示に「dRY」を表示します。**
- 3 デジタル表示に「dRY」が表示された状態で、「設定 / 確認」スイッチを押します。**
デジタル表示:「Ynn」(n: 西暦年の下 2 桁) が表示されます。
また、「実行」スイッチ灯が点滅します。「実行」スイッチ灯は、操作 3 ~ 操作 12 の実施中は常に点滅しています。
- 4 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、年数を選択します。**
デジタル表示:「y 12」(年数) を表示します。
- 5 「設定 / 確認」スイッチを押します。**
- 6 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、月数を選択します。**
デジタル表示:「m 05」(月数) を表示します。
- 7 「設定 / 確認」スイッチを押します。**
- 8 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、日数を選択します。**
デジタル表示:「d 10」(日数) を表示します。
- 9 「設定 / 確認」スイッチを押します。**
- 10 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、時数を選択します。**
デジタル表示:「h 14」(時数) を表示します。
- 11 「設定 / 確認」スイッチを押します。**
- 12 「△(上)」「▽(下)」「◀(左)」「▶(右)」スイッチを押して、分数を選択します。**
デジタル表示:「n 30」(分数) を表示します。
- 13 「実行」スイッチを押します。**
設定した日時が本機に反映されます。



POINT

日時設定中に本機を平常時の監視状態に戻す場合は、デジタル表示になにも表示されなくなるまで「戻る」スイッチを数回押してください。

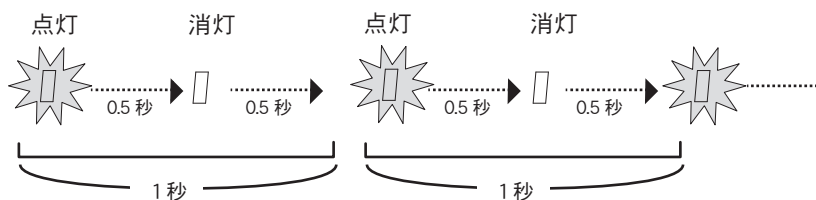
B. 点滅周期について

ここでは、本機の各部のLEDの点滅周期について示します。
ここで記載していない点滅の周期は、すべて「1秒間に1回」です。

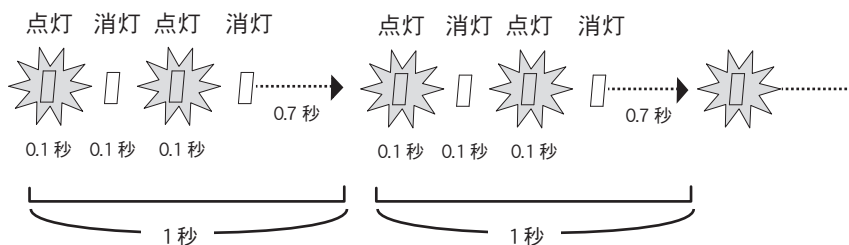
■点滅周期

各点滅のイメージ図を以下に示します。

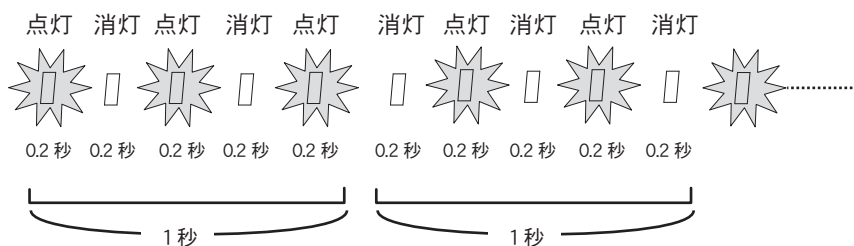
- ・ 1秒間に1回点滅



- ・ 1秒間に2回点滅



- ・ 2秒間に5回点滅（高速点滅）



■地区灯

- ・ 防排煙設備の地区灯（複合火災受信機の場合のみ）

〈連動起動の場合〉

連動用感知器の作動時：	1秒間に2回点滅
防排煙設備の起動時：	2秒間に5回点滅（高速点滅）
防排煙設備の作動信号の受信時：	点灯

〈手動起動の場合〉

防排煙設備の起動時：	2秒間に5回点滅（高速点滅）
防排煙設備の作動信号の受信時：	点灯

■補助灯

- ・「異常」灯
異常時： 2秒間に5回点滅（高速点滅）
- ・「電話」灯
発信機または表示機からの電話呼び出し中： 2秒間に5回点滅（高速点滅）
受信機の電話ジャックに電話プラグを差し込み時： 1秒間に1回点滅
- ・「蓄積中」灯
感知器の作動後5～10秒間（熱感知器の蓄積時間）： 点灯
感知器の作動後10～60秒間（煙感知器の蓄積時間）： 1秒間に1回点滅

■スイッチ灯

- ・「この機器の音を止める」スイッチ灯
音響鳴動時： 2秒間に5回点滅（高速点滅）
- ・「この機器の音を止める／連続停止」灯
保守音響停止中： 1秒間に1回点滅
- ・「館内の音を止める／連続停止」灯
保守地区音響停止中： 1秒間に1回点滅

C. 履歴リストについて

ここでは、履歴リストの確認方法および消去方法について説明します。



- ・ 履歴リストには、1,000 件まで履歴を記憶できます。履歴が 1,000 件を超えた場合、古い履歴から順に上書きされます。
- ・ 保守点検者が定期的に履歴リストを確認し、不要な履歴を消去するようにしてください。

履歴リストを確認するには

(例) 西暦 2012 年 10 月 10 日 14 時 30 分に連動用感知器が作動した場合 (*1)

*1: 「連動用感知器が作動した場合」の表示は「Lr」です。

操作

- 1 「設定 / 確認」スイッチを押します。**
「設定 / 確認」スイッチ灯が点滅し、「スイッチ注意」灯が点滅します。
- 2 「△(上)」「▽(下)」スイッチを押して、デジタル表示に「Lr」と「List」を表示します。**
- 3 デジタル表示に「Lr」と「List」が表示された状態で、「設定 / 確認」スイッチを押します。**
デジタル表示に「ynn」(n: 一番古い履歴の年数) が表示されます。
- 4 「▷(右)」スイッチを数回押して、確認したい履歴の年数を表示します。**
ここでの例では、デジタル表示に「y 12」(年数) を表示します。
- 5 「▽(下)」スイッチを押します。**
デジタル表示に「n nn」(n: 2012 年の一番古い履歴の月数) が表示されます。
- 6 「▷(右)」スイッチを数回押して、確認したい履歴の月数を表示します。**
ここでの例では、デジタル表示に「n 10」(月数) を表示します。
- 7 「▽(下)」スイッチを押します。**
デジタル表示に「d nn」(nn: 2012 年 10 月の一番古い履歴の日数) が表示されます。
- 8 「▷(右)」スイッチを数回押して、確認したい履歴の日数を表示します。**
ここでの例では、デジタル表示に「d 10」(日数) を表示します。
- 9 「▽(下)」スイッチを押します。**
デジタル表示に「h nn」(nn: 2012 年 10 月 10 日の一番古い履歴の時数) が表示されます。
- 10 「▷(右)」スイッチを数回押して、確認したい履歴の時数を表示します。**
ここでの例では、デジタル表示に「h 14」(時数) を表示します。
- 11 「▽(下)」スイッチを押します。**
デジタル表示に「n nn」(nn: 2012 年 10 月 10 日 14 時の一番古い履歴の分数) が表示されます。
- 12 「▷(右)」スイッチを数回押して、確認したい履歴の分数を表示します。**
ここでの例では、デジタル表示に「n 30」(分数) を表示します。
- 13 「▽(下)」スイッチを押します。**
デジタル表示に「Lr ←→■■■■」(履歴の内容) が表示されます。
履歴の内容については、『履歴一覧』(p. 41) を参照してください。



同じ日時に複数のイベントが発生した場合は、「▽(下)」スイッチを押すことで次の発生イベントを確認できます。



発生イベントがない場合

デジタル表示に「End」が表示されます。

「△(上)」スイッチについて

デジタル表示に各日時(年、月、日、時、分)または履歴の内容が表示された状態で、「△(上)」スイッチを押すと、前項目(年、月、日、時、分、履歴の内容)に切り替わります。

ただし、デジタル表示に1番古い履歴の発生年数が表示された状態で、「△(上)」スイッチを押した場合は、「End」が表示されます。

「▷(右)」スイッチについて

デジタル表示に各日時(年、月、日、時、分)が表示された状態で、「▷(右)」スイッチを押すと、翌日時(年、月、日、時、分)に切り替わります。

ただし、翌日時がない場合は「End」が表示されます。

「◁(左)」スイッチについて

デジタル表示に各日時(年、月、日、時、分)が表示された状態で、「◁(左)」スイッチを押すと、前日時(年、月、日、時、分)に切り替わります。

ただし、前日時がない場合は「End」が表示されます。

「戻る」スイッチについて

デジタル表示に各日時(年、月、日、時、分)が表示された状態で、「戻る」スイッチを押すと、記憶されている1番古いイベントの発生年数が表示されます。

また、デジタル表示になにも表示されなくなるまで「戻る」スイッチを数回押すと、本機は平常時の監視状態に戻ります。

履歴リストのダウンロードについて

履歴リストは、DBツールを使用してダウンロードすることができます。詳細は、『DBTOOL 取扱説明書』を参照してください。

履歴リストを消去するには

履歴リストは、メモリ容量の上限に達すると古い履歴から自動的に消去されるので、消去する必要はありませんが、消去する場合は以下の操作を行ってください。

注意



保守点検者以外の方は、履歴リストを消去しないでください。

操作

- 履歴の確認中に、「保守」スイッチを押したあと、「戻る」スイッチを10秒間押しします。

履歴リストが一括消去され、デジタル表示に「End」が表示されます。

履歴リストの確認方法については『履歴リストを確認するには』(p. 39)を参照してください。

履歴リストを一括消去した日時と、一括消去の履歴(履歴リスト消去の表示は「Err」)が記憶されます。

履歴一覧

各イベントでのデジタル表示、およびその内容について説明します。

「デジタル表示」欄で使用している記号は、以下の意味を示しています。

- ・「 \leftrightarrow 」は、表示が切り換わることを示します（0.5秒間隔で表示が切り換わります）。
- ・「■■■」は、回線を示します。
なお、「■■■■」は3桁、「■■■」は2桁を示します。

デジタル表示	履歴の内容
<i>EAC</i>	交流電源断
<i>EAC.</i>	交流電源断回復
<i>EDD</i>	予備電源異常
<i>EDD.</i>	予備電源異常回復
<i>tDD</i>	予備電源試験開始（手動）
<i>tDD.</i> \leftrightarrow 24.0 (*1)	予備電源試験終了（正常）24.0V
<i>EDD.</i> \leftrightarrow 20.4 または 33.0	予備電源試験終了（異常）
<i>tDD.</i> \leftrightarrow 22.2	予備電源試験終了（強制終了）
<i>E10</i>	回路電圧異常
<i>E.10.</i>	回路電圧異常回復
<i>E20</i>	ヒューズ断 FP
<i>E.20.</i>	ヒューズ断 FP 回復
<i>E21</i>	ヒューズ断 FI
<i>E.2.1.</i>	ヒューズ断 FI 回復
<i>E22</i>	ヒューズ断 FC
<i>E.2.2.</i>	ヒューズ断 FC 回復
<i>E23</i>	ヒューズ断 FA
<i>E.2.3.</i>	ヒューズ断 FA 回復
<i>E24</i>	ヒューズ断 FBK
<i>E.2.4.</i>	ヒューズ断 FBK 回復
<i>E26</i>	ヒューズ断 FDC
<i>E.2.6.</i>	ヒューズ断 FDC 回復
<i>E30</i>	伝送異常 MCU-FLU
<i>E.3.0.</i>	伝送異常 MCU-FLU 回復
<i>E40</i>	非常放送断線
<i>E.4.0.</i>	非常放送断線回復
<i>E41</i>	非常放送短絡
<i>E.4.1.</i>	非常放送短絡回復
<i>E50</i>	メモリ異常
<i>E.5.0.</i>	メモリ異常回復
<i>t60</i>	定期受信回路試験正常
<i>E60.</i> \leftrightarrow ■■■	定期受信回路試験異常 L■■■
<i>t62</i>	総合試験正常
<i>E62.</i> \leftrightarrow ■■■	総合試験異常 L■■■
<i>E70</i>	スピーカ断
<i>E.7.0.</i>	スピーカ断回復
<i>E87.</i> \leftrightarrow ■■■	回線■■■ 断線
<i>E.8.7.</i> \leftrightarrow ■■■	回線■■■ 断線回復
<i>Er5</i>	履歴リスト消去
<i>LP.</i> \leftrightarrow ■■■	回線■■■ 蓄積

デジタル表示	履歴の内容
L. ↔ ■■■	回線■■■ 火災
LPn. ↔ ■■■	回線■■■ 蓄積 (試験)
L n. ↔ ■■■	回線■■■ 火災 (試験)
Lr. ↔ ■■■	回線■■■ 連動用感知器 作動
Lrn. ↔ ■■■	回線■■■ 連動用感知器 作動 (試験)
d. ↔ ■■■	回線■■■ 端末装置 起動
d. ↔ ■■■	回線■■■ 端末装置 起動回復
dR. ↔ ■■■	回線■■■ 端末装置 作動
dR. ↔ ■■■	回線■■■ 端末装置 復帰
F. ↔ ■■■	F■■■ 移報制御
5L. ↔ ■■■	L■■■ 諸警報 作動
5L. ↔ ■■■	L■■■ 諸警報 復帰
5dR. ↔ ■■■	DA■■■ 諸警報 作動
5dR. ↔ ■■■	DA■■■ 諸警報 復帰
5LH. ↔ ■■■	LX■■■ 諸警報 作動
5LH. ↔ ■■■	LX■■■ 諸警報 復帰
LR	発信機 作動
C01	火災確認信号 ON
C0.1	火災確認信号 OFF
C02	消火栓 起動
901	消火栓 始動
90.1	消火栓 停止
902	非常放送中
90.2	非常放送中回復
H01	音響停止
H02	保守音響停止
H0.2	保守音響停止解除
H03	地区音響停止
H0.3	地区音響停止解除
H04	保守地区音響停止
H0.4	保守地区音響停止解除
H05	地区音響一斉鳴動
H0.5	地区音響一斉鳴動解除
H06	復旧
H07	蓄積解除
H0.7	蓄積
H10	自動復旧
H1.0	自動復旧解除
H11	試験復旧
H1.1	試験復旧解除
H12	消火栓遮断
H1.2	消火栓遮断解除
H13	非常放送遮断
H1.3	非常放送遮断解除
H14	火災代表遮断
H1.4	火災代表遮断解除
H15	防排煙遮断
H1.5	防排煙遮断解除
H16	一括遮断

デジタル表示	履歴の内容
H.16.	一括遮断解除
oP■■■	OP■■■ ON
oP■■■	OP■■■ OFF
H.19	操作無効
H.19.	操作無効解除
H.20	保守異常音響停止
H.20.	保守異常音響停止解除
H.21	日時設定 (旧)
H.22	日時設定 (新)
P.on	電源 ON
stop	システム停止

D. 後続送り操作について

ここでは、火災・連動用感知器の作動時（蓄積動作を含む）の後続送り操作について説明します。

蓄積機能の作動時および火災警報の発報時、デジタル表示には最初に感知器が作動した回線が表示されません。感知器が複数作動した場合、「▷(右)」「◁(左)」スイッチを押すことで、第1報以外の回線を確認できます（最大20報）。

- ・「▷(右)」スイッチ
現表示の次に発報した回線を表示します。
最終発報を表示した状態でスイッチを押すと、第1報の表示に戻ります。
- ・「◁(左)」スイッチ
現表示の前に発報した回線を表示します。
第1報を表示した状態でスイッチを押すと、最終発報を表示します。
- ・「▷(右)」スイッチと「◁(左)」スイッチ
2つのスイッチを同時に押すと、第1報を表示します。

E. 電話の取り扱いについて

ここでは、電話の取り扱い方法について説明します。

発信機または表示機から電話の呼び出しを受けると、本機は「プルルル プルルル」と電話呼び出し音響が鳴り、「電話」灯が点滅します。

操作

- 1 受話器のプラグを電話ジャックに差し込みます。**
電話呼び出し音響が停止し、「電話」灯が点灯します。
通話ができます。



POINT

電話の呼び出しを受けていない場合に、受話器のプラグを電話ジャックに差し込むと、「電話」灯が点滅します。その状態で発信機または表示機から呼び出しを受けると、「プルルル」と電話呼び出し音響が1回鳴り、「電話」灯が点灯し、通話ができます。

F. 操作無効機能

操作無効機能とは、盤面上の「保守」スイッチを除くすべてのスイッチの盤面操作を無効にする機能です。



POINT

操作無効機能は、火災・連動用感知器の作動時（蓄積動作を含む）には設定できません。

操作無効機能を設定するには

操作無効機能を設定する場合は、以下のように操作してください。

操作

- 1 「保守」スイッチを押します。
- 2 「設定 / 確認」スイッチを 5 秒間押します。
操作無効状態となり、「操作無効」灯が点滅します。

操作無効機能を解除にするには

操作無効機能を解除する場合は、以下のように操作してください。

操作

- 1 「保守」スイッチを押します。
- 2 「設定 / 確認」スイッチを押します (5 秒間押す必要はありません)。
操作無効機能が解除され、「操作無効」灯が消灯します。



操作無効状態中であっても、以下の場合には操作無効機能は自動的に解除され、すべてのスイッチ操作ができるようになります。

- ・ 火災警報時
- ・ 異常時
- ・ 端末作動時
- ・ 連動用感知器作動時
- ・ 予備電源作動時

なお、蓄積時、電話呼び出し時、および保守地区音響停止時には、操作無効機能は解除されません。

G.仕様

種別	P 型 1 級火災受信機 (蓄積式)	P 型 1 級複合火災受信機 (蓄積式)
型名	FAPJ105NR-5 ~ 20L/LT	FCSJ105NR-10 ~ 20L/ LT
回線数	5, 10, 15, 20	10, 15, 20
構造	露出、壁掛型	
国検型式番号	受第 24 ~ 8 号	
自主評定マーク使用許可番号	なし	A-12-2
主電源	AC100V ± 10%, 50/60Hz	
予備電源 (*1)	密閉型蓄電池内蔵、トリクル充電方式	
	DC24V 0.45Ah	DC24V 1.65Ah
回路電圧	感知器、表示機： 地区音響、自動閉鎖装置 (*2)： マイコン、IC、表示回路： 蓄電池充電回路： 表示灯回路：	DC24V (定電圧電源) DC24V (全波整流電源) DC5V (定電圧電源) DC48V (半波整流電源) AC24V
消費電力	警戒時：最大約 30VA 作動時：最大約 68VA	警戒時：最大約 45VA 作動時：最大約 125VA
感知器・発信機接続機種	一般型感知器 (差動、定温、炎、光電、光電分離、イオン)、一般型発信機	
接続機器個数	回線ごとの煙感知器数 (*3)	非蓄積型煙感知器：30 個 (蓄積型煙感知器は接続できません)
	受信機の煙感知器数 (*3)	30 個 × 回線数 (*4)
	地区音響装置	30 個 (DC24V、10mA)
	表示灯	7 個 (30V、2W ランプ)、29 個 (24V、15mA LED)
	自動閉鎖装置	なし
	常時通電灯	なし
表示機	最大 4 台 (*5)	
防排煙回線数	なし	10L：5、15L：10、20L：10
防排煙電源	なし	1A
移報出力接点容量	DC24V、1A/1 接点	
公称蓄積時間	60 秒 (熱感知器：10 秒、煙感知器：60 秒)	
主音響装置	音声警報、後続再鳴動方式	
試験・点検機能	火災試験： 総合試験： 定期受信回路試験： 火災復旧： 試験復旧： 自動復旧：	1 回線ごとに手動で火災試験 盤面表示灯全点灯、および 1 回線から順次火災試験 定期的な火災受信回路の自動自己診断 火災動作の復旧 (「復旧」スイッチによる) 火災受信回路の自己保持解除 感知器作動後の自動復旧
異常警報機能	感知器配線断線、予備電源異常、回路電圧異常、ヒューズ断線、伝送異常、非常放送設備連動地区音響停止回路の断線・短絡警報、スピーカー脱落、メモリ異常、DB 異常、定期受信回路試験異常、CPU 異常	
デジタル表示 (3 桁)	蓄積中・火災・異常回線、蓄電池電圧、異常コード、履歴リスト、設定データ	
環境条件	使用温度範囲：0℃ ~ 40℃ 使用湿度範囲：20~85% (RH)	
外部配線抵抗	往復 50Ω 以下	
外形 (W × H × D)	340 × 480 × 90mm	
主材	ABS 樹脂	
仕上げ	ノーマルホワイト (NW) (マンセル N8.7 近似色)	
質量	約 4kg	約 5kg
付属品	工事用予備品、取扱説明書、蓄電池、送受話器、予備品箱、施工説明書、データベース設定説明書、機能設定表、遮断スイッチ設定表	

- *1: 予備電源は、ニッケルカドミウム蓄電池です。
FAPJ105N シリーズは、全回線を 1 時間監視後に、10 分間最大 2 回線が同時作動できる容量を持っています。
FCSJ105N シリーズは、全回線を 1 時間監視後に、火災回線は 30 分間最大 2 回線が同時作動でき、防排煙回線は 9 回線 (20L の場合) を 10 秒間隔で順次作動させ、1 回線目作動から 30 分経過した時点で、さらにほかの 1 回線を作動できる容量を持っています。
- *2: FCSJ105N シリーズのみ。
- *3: 機械式以外の感知器を含む。(例：差動防水 (FDPJ202-DW-X))
- *4: 表示機接続台数および I 土電源容量によって、感知器の最大接続数は減ります。
- *5: 感知器接続台数および I 土電源容量によって、表示機接続台数は減ります。

索引

い

異常音響の停止方法	18
異常警報一覧	17
異常時の操作	16

お

オプションスイッチによる移報遮断	25
------------------	----

か

各試験の終了方法	30
火災音響の停止方法	10
火災試験の結果	28
火災試験の終了方法	30
火災試験の方法	26
火災時の操作	9
火災代表移報遮断	25
火災復旧	15

こ

後続送り操作	44
--------	----

し

試験復旧	33
自動復旧	32
消火栓ポンプ制御機器の始動	13
消火栓ポンプ制御機器の連動遮断	25

す

スイッチ操作について	5, 22
------------	-------

せ

正常な監視状態	7
---------	---

そ

総合試験の結果	29
総合試験の方法	28
操作無効機能の解除	45
操作無効機能の設定	45

た

端末作動音響の停止方法	13
-------------	----

ち

地区音響一斉鳴動	11
地区音響の逐次鳴動時間・拡大警報時間	11
地区音響の停止方法	10
蓄積解除	24
蓄積機能	8
蓄積時間試験の方法	32

て

定期受信回路試験	33
停電時の状態	7
電話呼び出しについて	
火災音響鳴動中は	10
表示機から本機を呼び出すには	13

ひ

非火災報だったときは	10
非常放送の連動移報	14
非常放送の連動移報遮断	25
表示機の火災音響の停止方法	13

ふ

付属設備の動作と操作（火災時）	11
付属設備の連動・移報の一括遮断	25

ほ

防排煙設備の起動	12
防排煙設備の連動遮断	25
保守異常音響停止解除	24
保守異常音響停止設定	24
保守音響停止解除	24
保守音響停止設定	23
保守地区音響停止解除	24
保守地区音響停止設定	24

よ

予備電源試験の結果	31
予備電源試験の終了方法	32
予備電源試験の方法	30

り

履歴一覧	41
------	----

れ

連動遮断、移報遮断の解除	25
--------------	----

L

LEDの点滅周期	37
----------	----

NOHMI 能美防災株式会社

本 社 / 〒102-8277 東京都千代田区九段南4-7-3 TEL.(03) 3265-0211 FAX.(03) 3264-4465
支 社 / 北海道(011)746-6911 東 北(022)221-2695 新 潟(025)243-8121 丸の内(03)3213-1781
茨 城(029)225-2600 千 葉(043)266-0303 北関東(048)642-0147 西関東(042)643-1520
横 浜(045)682-4700 長 野(026)227-5521 静 岡(054)247-3211 中 部(052)915-2411
金 沢(076)252-6211 大 阪(06)6330-8661 京 都(075)694-1192 神 戸(078)334-3581
中 国(082)510-1125 岡 山(086)244-4222 九 州(092)712-1560 熊 本(096)360-1051
営業所 / 旭 川(0166)35-7824 青 森(017)729-0532 盛 岡(019)645-0552 秋 田(018)862-5086
郡 山(024)947-1194 福 島(024)528-4195 上 越(0255)26-1886 羽 田(03)5757-9393
渋 谷(03)3461-1051 杉 並(03)3306-0451 城 東(03)3626-2461 城 北(03)5292-2137
五反田(03)3779-9737 土 浦(029)822-3851 宇都宮(028)637-4317 群 馬(027)328-1567
埼玉西(049)247-4640 川 崎(044)233-5773 沼 津(055)923-9669 浜 松(053)473-3422
岐 阜(058)276-7761 三 重(059)226-9860 富 山(076)444-1450 福 井(0776)21-0056
四 国(087)868-6811 北九州(093)583-3344 長 崎(095)845-0135 大 分(097)543-2778
宮 崎(0985)28-8792 鹿児島(099)253-8196 沖 縄(098)862-4297

URL: <http://www.nohmi.co.jp/>

お問い合わせは…

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更する場合があります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。